

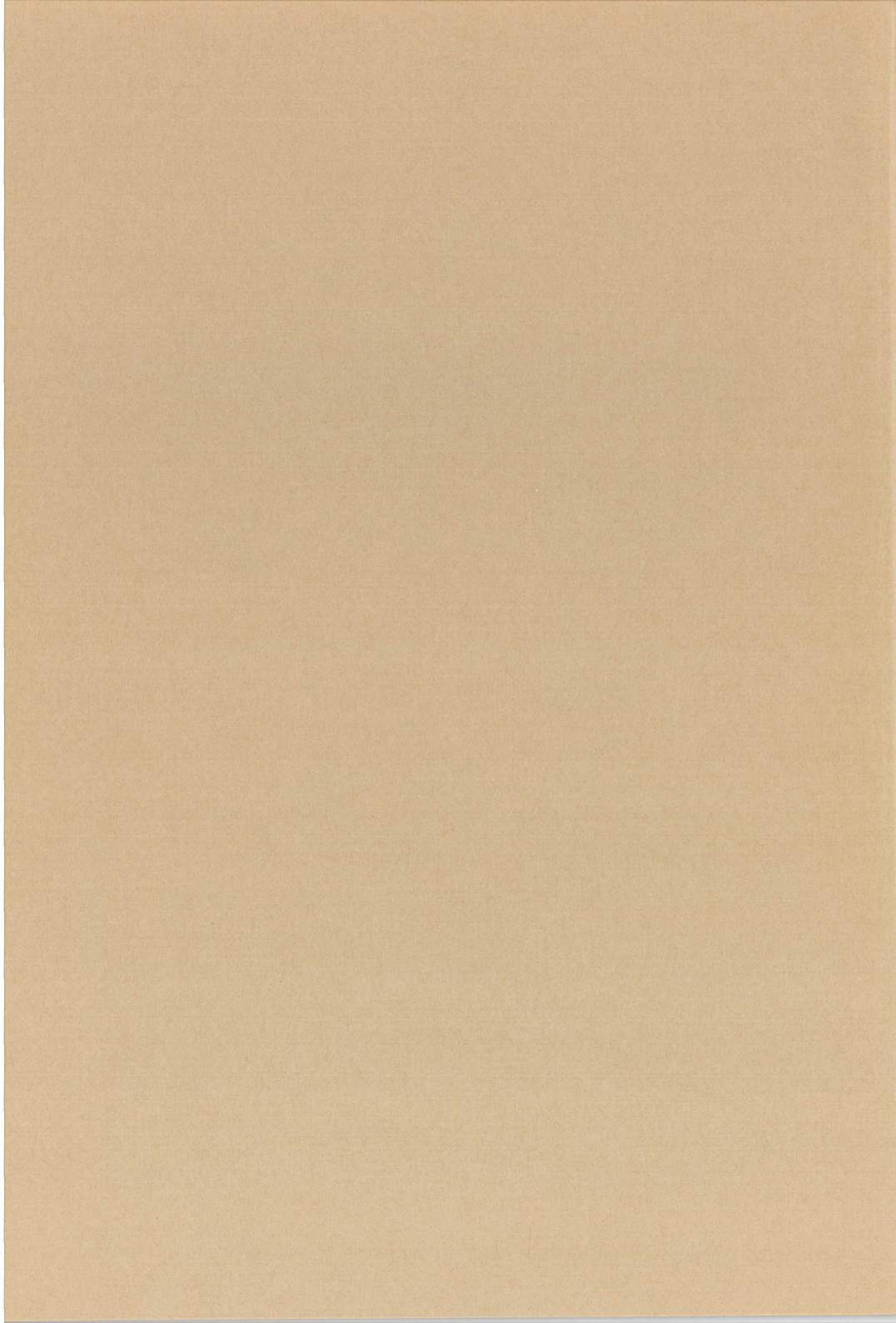
ISSN 1344-476X

財団  
法人

東洋文庫年報

平成 12 年度

財団法人 東洋文庫



## 目次

I	図書事業	1
1.	資料の収集	1
2.	資料の整理	2
3.	資料の利用と複写サービス	3
4.	書庫資料の見学と研修	6
5.	資料の保存整理と複製	7
6.	業務の機械化	8
7.	書庫内資料と書架スペース	9
II	研究事業	11
1.	調査研究	11
i	日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究	11
ii	一般調査研究	20
iii	特別調査研究	24
iv	その他の平成12年度研究助成金による事業	26
v	研究委員会	31
2.	学術図書出版	33
3.	講演会	34
4.	研究会（東洋文庫談話会）	35
5.	学術情報提供	35
i	研究者養成	35
ii	研究者の交流および便宜供与のサービス	36
iii	研究会等への会場提供サービス	41
iv	研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	41
v	参考情報提供サービス	41
6.	職員の研究業績	42

III	業務報告	58
1.	総務報告	58
2.	人事報告	59
IV	役職員名簿	61
1.	役員	61
2.	東洋学連絡委員会委員	62
3.	名誉研究員	62
4.	職員	63
5.	臨時職員	66
V	財団法人東洋文庫附置	
	ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	67
1.	ユネスコ協力事業	67
2.	学術情報活動— アジア・北アフリカ人文・社会科学関係 —	68
3.	コンピュータネットワーク事業	72
4.	重要文献の研究・保存事業	
	— アジア重要文化財（文献）の研究・保存 —	73
5.	フランス国立極東学院学術交流事業	74
6.	業務報告	76
7.	役職員名簿	79

# I 図 書 事 業

## 1. 資料の収集

### (1) 資料購入

資料購入費の支出総額は18,395,436円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 (冊)	洋書 (冊)	計 (冊)
一般調査研究資料	1,150	407	2,557
一般研究資料	158	30	188
中央アジア特別研究資料	192	502	694
東アジア特別研究資料	919	0	919
西アジア特別研究資料	2	980	982
マイクロ資料	0	0	0
チベット特別研究資料	0	31	31
近代中国特別研究資料	537	58	595
計	2,958	2,008	5,966

主な購入図書としては、以下のものがある。

続修四庫全書 卷801-1300	500冊
咸豊同治兩朝上輪档	全24卷
西安碑林全集	1-14函
新編中国地方志叢書	119冊
清実録 (蒙文版)	19冊
パキスタン発行図書	422冊
Khuda Bakhsh Oriental Public Library発行資料	160冊
アラビア語資料	171冊
ロシア、中央アジア諸国発行 ロシア語図書他	161冊

### (2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	1,185	1,236	2,421	1,937	1,212	3,149
定期刊行物	4,145	527	4,672	1,757	1,319	3,076
計	5,330	1,763	7,093	3,694	2,531	6,225

主な受贈資料としては、以下のものがある。

萩田博氏寄贈	ウルドゥ語図書	6冊
Dr. Umar Daraz Xan寄贈	ウルドゥ語図書	16冊
民族文化推進会寄贈	影印評点韓国文集叢刊 他	63冊
檀国大学校東洋学研究所寄贈	漢韓大辞典1-3	3冊
建国大学同窓会寄贈	満州建国大学関係資料	499冊
故護雅夫氏寄贈	洋書、トルコ語等研究書	732冊
イラン・イスラム共和国大使館寄贈	ペルシア語資料	383冊

資料室では文庫刊行物以外の図書を交換用資料として活用し、近代中国研究室の協力を得て作成した交換用図書リストを海外の諸機関に送付している。今年度は下記の4機関に要望のあった資料を寄贈した。

交換機関	送付リスト	送付図書数
中国国家図書館	欧文、中文(台湾発行)／雑誌84タイトル	2タイトル 12冊
武漢大学図書館	欧文、中文(台湾発行)／雑誌84タイトル	4タイトル 275冊
大韓民国国会図書館	韓文、日文、中文、欧文／図書100タイトル	34タイトル 冊
中央研究院歴史語言研究所	中文(大陸発行)、韓文、日文／雑誌42タイトル	27タイトル 180冊

### (3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は856,349冊で、和漢書493,802冊、洋書339,107冊、複写資料23,440冊である。

## 2. 資料の整理

### (1) 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	1,906冊
------	--------

欧米語図書 668冊  
 アジア諸言語図書 668冊

整理したおもな図書は以下のとおりである。

- (1) 新編中華人民共和国地方志叢書 266冊  
 (2) 続修四庫全書 301-800 史部 500冊  
 (3) 中央アジア・シベリア関係ロシア語図書 約370冊

## (2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下のとおりである。

『東洋文庫新着図書目録 48』 101p

## (3) 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文22タイトル、欧文2タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	666	168	3,575	443
購入	138	103	671	241
小計	804	271	4,246	684
計	1,075		4,930	

## (4) 新聞

本年度は18種（何れも中文）受入れた。

外注製本の総量は新聞・雑誌合わせて963冊であった。

# 3. 資料の利用と複写サービス

## (1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は216名で、内訳は教職員50名（外国人24名）、研究機関関係者8名（外国人5名）、大学院生69名（外国人12名）、大学生72名（外国人6名）、その他11名であった。

閲覧開館日は230日、利用者数は3,096名、利用資料数は51,447冊で、詳細は下記の

とおりであった。

東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ1,030名、2,567冊であった。

#### 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
平成12年 4月	19 <sup>(日)</sup>	201 <sup>(人)</sup>	11 <sup>(人)</sup>	△47 <sup>(人)</sup>
5	19	267	15	△23
6	21	238	12	△105
7	19	298	16	△70
8	22	366	17	△47
9	19	274	15	△90
10	20	303	16	△148
11	18	268	15	△127
12	18	286	16	△126
平成13年 1	17	174	11	△69
2	18	224	13	△34
3	20	197	10	△74
計	230	3,096	14	△960



## 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成12年 4月	84	146	420	2,705	103	194	607	3,045	161	184
5	197	309	498	2,862	135	234	830	3,405	180	△652
6	159	292	434	2,237	201	406	794	2,935	140	△1,449
7	158	344	703	4,487	149	570	1,010	5,401	285	1257
8	225	497	1,232	6,679	169	402	1,626	7,578	345	941
9	121	214	778	4,098	159	339	1,058	4,651	245	△1,540
10	173	296	901	5,381	137	291	1,211	5,968	299	550
11	161	390	637	3,551	199	308	997	4,249	237	△1,950
12	157	371	559	3,302	187	384	903	4,057	226	△791
平成13年 1	113	395	397	2,143	128	240	638	2,778	164	342
2	130	360	585	3,401	83	153	798	3,914	218	△62
3	83	214	501	3,045	135	207	719	3,466	174	△1,144
計	1,761	3,828	7,645	43,891	1,785	3,728	11,191	51,447	223	△4,314
比率	7.5%		85.3%		7.2%		100%			

### (2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
445	31,618	42,118	13,544

電子複写

申込件数	提供枚数
794	47,345

### (3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて793件であった。

#### (4) 資料の貸出

博物館・美術館が主催して行う展覧会への貸出は3件で、詳細は次のとおりであった。

##### 展覧会への資料の貸出一覧

	展覧会名	主催者	展覧会期間	開催場所	主な資料と数量
1	開館記念特別展 「江戸時代の印刷文化 一家康は活字人間 だった!!」	印刷博物館	平成12.10.6 ～12.10	印刷博物館	『日本書紀』 はじめ6点9冊
2	千葉市美術館 開館五周年記念 「菱川師宣」展	千葉市美術館	平成12.10.24 ～11.26	千葉市美術館	『吉原大雑書』 はじめ3点3冊
3	新春特別展 「祭り」と年中行事	熱田神宮 中日新聞社	平成13.1.1 ～1.30	熱田神宮宝物館	『尾張年中行事 略絵抄』全6冊

## 4. 書庫資料の見学と研修

申請は29件あり、332名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。  
なお、このほかに当日申込の書庫見学が52件123名あった。

	実施月	申請者	参加者	人数(名)	主な内容
	平成12年				
1	5月1日	小名 康之	青山学院大学文学部史学科学生	9	書庫内資料見学
2	5月9日	吉板 聡子	東京外国語大学ペルシア語専攻学生	21	〃
3	5月24日	三浦 徹	お茶の水女子大史学科学生	15	〃
4	6月2日	佐藤 次高	東京大学東洋史学科学生	18	〃
5	6月20日	三輪由美子	国立国会図書館研修生	24	〃
6	6月22日	滝沢 儀意	中国国家図書館来日研修生	2	〃
7	7月3日	斎藤 経一	典遊会有志	10	〃
8	7月4日	窪田 新一	北京大学国際関係研究講座大学院生	10	〃
9	7月5日	三菱広報委員会 事務局	三菱ゆかりの地見学会参加者	30	〃
10	7月19日	白井佐知子	東京外国語大学学生	5	〃

11	7月19日	新免 康	中央大学東洋史専攻学生	8	書庫内資料見学
12	8月8日	呂 燦栄	大邱cathoric大学校学生	6	〃
13	8月21日	呉 明德	台湾大学図書館司書	2	〃
14	8月23日	三菱金曜会幹事	三菱金曜会・社名商標委員会幹事会	26	〃
15	9月18日	斯波 義信	第1回中国史学国際会議国外招待者	20	〃
16	9月20日	柳沢 明	早稲田大学文学部学生	9	〃
17	9月21日	坂本 勇	ベトナム国家文書局研修員	1	〃
18	9月21日	松林健一郎	イラン文化イスラム指導相一行	9	〃
19	9月28日	原 洋之介	東京大学東洋文化研究所漢籍整理長期研修生	6	所蔵資料についての研修及び書庫内資料見学
20	10月23日	梅村 坦	中央大学学生	7	書庫内資料見学
21	10月23日		ミャンマー教育省大学歴史研究局総局長一行	4	〃
22	11月16日		ダイヤ高齢社会研究財団一行	18	〃
23	11月20日	鈴木 昭博	国立国会図書館職員	9	〃
24	11月28日	高田 幸男	明治大学東洋史学専攻学生	19	〃
25	11月29日	三菱広報委員会	三菱ゆかりの地見学会参加者	18	〃
26	11月11日	楠木 賢道	筑波大学人文学類学生	15	〃
27	12月11日	福田アジオ	華東師範大学対外漢語系教員	5	〃
	平成13年				
28	2月16日	池 賛浩	韓国政府記録保存所員一行	4	〃
29	2月22日	今林 早苗	上智大学教員	2	〃

## 5. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への交換を行った。作業項目と内容は下記のとおりである。

### (1) 漢籍地方志

継続している作業で本年度は、分類記号Ⅱ-11-B-K-30、45、51、56、79までを対象

裏打ち1,395葉、綴じ直し51冊、帙作製7ヶ

### (2) 貴重洋書 (OLD BOOKS)

継続している作業で本年度は、分類記号0-3-B-1~0-3-B-72を対象。

清掃、クリーニング、オイリング及びラッパー作製129冊、補修62枚

**(3) その他の書庫内資料**

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。

本製本（洋、和）65冊、再製本と簡易製本114冊、ラッパー及び帙作製20ヶ、補修2,529枚、クリーニング24冊、整理保全710点

**(4) 資料の撮影 30,702コマ**

対象資料：漢籍稀観書

**(5) 活用フィルム作製のためのポジフィルムの作製 50リール**

撮影した漢籍稀観書のネガフィルムを対象にポジフィルムの作製を行った。

## 6. 業務の機械化

資料室では、受入に関するデータの一部を目録データベースと共有することで業務の効率化に努めた。目録室では、引き続きデータベースの入力作業を進め、蓄積したデータ件数は予定のほぼ半ばに達した。入力状況の詳細は東洋文庫ホームページに「目録電算化の進捗状況」として掲載した。閲覧室では、PCを試験的に配置し係員のデータベース操作習熟を図った。また、目録データベースを媒介に保存業務と目録業務との連携を模索している。

## 7. 書庫内資料と書架スペース

### (1) 書庫内資料の排架一覧と新規排架およびおもな調整個所

階	1号棟	新規排架・調整個所	2号棟	新規排架・調整個所
6	朝鮮本、安南本、満州本、 蒙古本、和書(XIII~XVII ・大型)		/	
5	Old Books、PB、MS、漢籍 稀観書、岩崎文庫、銅版画、 古地図、梅原考古資料、 辻文庫、榎文庫Old Books ・線装本		和書(II~XII)	和書(XI~XII)
4	洋書(I~XII・大型)、 第IIモリソン文庫、 ベラルテ文庫、アジア諸語 資料、ロシア語別置資料		トルコ語資料、榎文庫、 岩見文庫、アジア諸語資料、 チベット語資料	榎文庫、岩見文庫 及びアジア諸語資 料の大型本
3	漢籍(経部・子部・集部・ 叢書・大型)、日本語・ ハングル新着雑誌	漢籍 (経、子、集部)	洋書(XIII~XVII・XIX)、 モリソンパンフレット、 アラビア語資料、ペルシア 語資料	アラビア語・ペル シャ語資料の大型 本
2	漢籍(史部)	漢籍(地方志)	近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物(日・中・朝・ 洋新聞)、中国語・欧文新着 雑誌	中国語・朝鮮語 雑誌	逐次刊行物(欧文)	

### (2) 書庫問題

本年度の主な資料移動は以下のとおりである。

- 1号棟2階及び3階の資料を平行移動し、棚から溢れていた資料の排架に努めた。
- 中国語、朝鮮語の新規製本済雑誌を排架するため、既排架のこれら雑誌を平行移動した。
- 2号棟3階のアラビア語、ペルシャ語、西アジア欧米語資料及び同4階の榎文庫、岩見文庫、アジア諸語資料の大型本を書架最下段に排架し直した。
- 資料排架の適正化を計るため、2号棟5階の和書の一部(XI~XII)を平行移動

した。

書庫の飽和状態はいよいよ進行し、最早出納に支障を来す状況にあり、一刻も早く改善策を打ち出し、それを実施する段階にきていると思われる。毎年提案しているところであるが、資料の大胆な選択受け入れ、大量別置、処分等を真剣に検討すべきであろう。

## Ⅱ 研究事業

### 1. 調査研究

調査研究は、文部科学省国庫補助金および科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費あるいは東洋文庫学術情報提供事業費などによるものにわかれる。

#### i. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

##### 基盤研究（A）—（2）

【課題】 「東北アジア地域に関する民族誌の総合的研究」

【期間】 平成12年度（平成9年度採用4ケ年間・最終年度）

【目的】；

今回の研究は、17世紀以降20世紀初頭に至る時期の、東北アジア（中国東北、朝鮮、ロシア極東・シベリア、モンゴル）の文化と民族関係に焦点をあてる。この時期の東北アジアに関する資料は、満洲語、漢語、朝鮮語、モンゴル語、そしてロシア語をはじめヨーロッパ諸語など、さまざまな言語で記述されているが、これら資料相互の体系的な検討はいまだなされたことがない。本研究の目的は、さまざまな資料のうえにあらわれた東北アジア諸民族のすがたを、満洲語文献班、朝鮮語文献班、漢籍班、ヨーロッパ諸語文献班の4班に分けて、比較考察しようとするものであり、研究代表者および分担者は、米国、韓国、ドイツ、中国等において、資料調査および学術交流を行った。

【研究実績概要】；

本年度は最終年度にあたるため、東洋文庫に収蔵されている東北アジア民族誌関係文献のデータベース化を行い、ほぼヨーロッパ諸語文献については作業を完了した。また、ヨーロッパ諸語、モンゴル語、朝鮮語、及び漢語で記された東北アジア関係文献を収集したが、この中には、稲葉岩吉旧蔵『百二老人語録』など、貴重な文献が含まれる。さらに、国内外に所蔵される満洲語を中心とした写本史料で、とくに史料的高いものについては写真撮影を行い、東洋文庫に所蔵される未整理の満洲語文献のカタログ化をも行った。出版に関しては、アメリカ合衆国における最大の満洲語文献コレクションである米国議会図書館所蔵本に関

して、同図書館の要請により解題目録を作成し、MATSUMURA Jun; *A Catalogue of Manchu Materials in the Library of Congress, Xylographs, Manuscripts, Archives*, Association for Northeast Asian Sources, Tokyo, 1997) として出版した。なお、最終年度の事業を総括して、4ヶ年間における活動実績をあきらかにする報告書の作成・出版を行った。

【研究代表者】 松村 潤 研究員 (統括)

【研究分担者】 ；

満洲語文献班：松村 潤、石橋 崇雄

朝鮮語文献班：山内 弘一、大井 剛

漢籍班：神田 信夫、加藤 直人

ヨーロッパ諸語文獻班：中見 立夫、C. A. ダニエルス (以上、計8名)

## 基盤研究 (B) — (1)

【課題】 「ポストモンゴル期におけるアジア諸帝国に関する総合的研究」

【期間】 平成12年度 (平成11年度採用3ヶ年間 (追加採択) ・第2年度)

【目的】 ；

最近の一連の研究により遊牧部族連合国家モンゴル帝国の国家構造が解明された。本研究はポストモンゴル期の諸帝国について、ペルシア語を中心とする西アジア諸語良質写本を利用して考察し、従来の西洋中心史観、イスラム史観に惑わされることなく、その国家構造を解明することを目的とするものである。

【研究実施概要】 ；

「野蠻で未開の遊牧民」という誤った、独善的な前提を排し、ペルシア史料、漢文史料の字面の奥深くを剝り出し、以下のことを確認した。

- (1) 北アジアに興ったトルコ系・モンゴル系遊牧・狩猟騎射戦士達の不断の南下と西進が中央ユーラシア史を展開させ、中国、中央アジア、西アジアに幾多の政権を成立させた。こうした騎射戦士達の活動の頂点に立つモンゴル帝国のユーラシア大陸東西に跨る支配は時代を大きく画し、ポストモンゴル期の諸国家を経て現在に直結する国家形成を促した。
- (2) 従来の定説とは異なり、遊牧民族は極めて開化した存在であった。中国を支配した歴代王朝の支配者層の大部分が遊牧・狩猟騎射戦士とその後裔達であり、モンゴル帝国の支配者層は世界の歴史・地理に精通しており、大航海時代以後の知見とされる多くの事柄を既に熟知していた。



- (3) モンゴル帝国は王族チンギス・カン一門と麾下の遊牧諸部族の「御家人」達が連合した部族連合国家であり、チンギス一門とその擬制家族（姻族・義父・師父・養子・乳兄弟・譜代の家人）を輩出する特定部族が政権の中核を占め、一般部族と連合していた。モンゴル帝国の各王家（ウルス）の中核となる支配者層の構成は基本的には同様のものであった。
- (4) ポストモンゴル期の諸国家の多くが部族連合国家であり、モンゴル帝国を構成した諸部族や治下の諸部族が統廃合・再編されて部族連合を形成していた。モンゴル帝国時代の諸制度も数多く継承されていた。

【研究代表者】 志茂 碩敏研究員（統括）

【研究分担者】 杉山 正明（モンゴル帝国）、小山 皓一郎（オスマン帝国）、川口琢司（ティムール帝国、ムガル帝国）、小野 浩（カラコユン朝、アクコユン朝、サファヴィー朝）、堀川 徹（ウズベク・カザフ・カガンアストラハン諸汗国）

#### 研究成果公開促進費（データベース等）

【名称】 「東洋学総合情報システム」(A Comprehensive Information System of the Asian Studies) (東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫)

【期間】 平成12年度（平成6年度以降単年度事業、12年度採用）

【分野】 「アジアの諸言語で書かれた文献およびアジアについて書かれた書籍」

【目的】；

本データベースは、東洋文庫所蔵のアジア諸国語によって書かれた文献を中心に、所蔵目録、解題目録、目次表、古典的文献の全文テキスト、写本画像などのデータベース作成を目指す。東洋文庫は東洋学に関する日本最大の図書館であり、その蔵書目録を簡便に検索できるようにしてほしいとの要望は大きい。これらについて、館内での作業および検索に際しては、欧文・和文は言うに及ばず、アジア諸言語についても、できうる限りオリジナルの文字を使用し、やむを得ない場合でも学界で標準的に用いられている転写文字を使用して目録データの入力・表示を行うことによって、コンピュータ上でも正確で利用しやすい情報蓄積が可能となる。これら特殊語を同一のフォーマットのもとでデータベース化する試みは他に類を見ない。

また、所蔵目録のみではなく、テキストデータや目次、索引などもデータベース化して入力することにより、同一のデータから紙媒体での印刷、インターネッ

トでの簡便な情報提供、各言語の文字を使用したデータベースでの公開など、複数の公開手段を使って、できる限り多くの研究者の利用に供することを目的とする。

**【事業実績概要】；**

アジアの諸言語で書かれた文献およびその研究文献について、総合的な情報データベースを作成している。特に可能な限りオリジナルの文字をコンピュータ上で処理するとともに、将来性、互換性、公共性を考慮したデータの記入法を検討した入力を行っている。東洋文庫所蔵の総合目録データベース（アラビア語、ベルシア語、オスマントルコ語、ウイグル語、現代トルコ語、チベット語、モンゴル語、中央アジア諸語、インド語、中文、欧文、和文、漢籍）を初めとして、解題目録、マイクロフィッシュ目録、テキストデータベース、目次集成などを作成している。東洋文庫内でのデータベース利用としてだけではなく、平成12年度からは、東洋文庫のWebページで、アラビア語、ベルシア語、トルコ語などをオリジナルスクリプトのまま検索・表示できるようにしたほか、東洋文庫所蔵全漢籍を含む各種データベースのオンライン検索を充実させている。また、アラビア文字系のデータベースでは、東洋文庫のデータを元に他機関のデータを統合した総合目録を進めつつあり、平成13年度初頭には複数機関のデータが検索できるようになる。

**【作成代表者】** 北村 甫・東洋文庫電算化委員会委員長

**【作成分担者】** 石井 米雄、佐藤 次高、斯波 義信、小名 康之、福田 洋一の各委員

## 科学研究費新プログラム方式による創成的基礎研究

**【課 題】** 「現代イスラーム世界の動態的研究—イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積—」（研究代表者・佐藤 次高東京大学教授）

**【期 間】** 平成12年度（平成9年度以降事業・5ヶ年間・第4年度）

**【目 的】；**

本プロジェクト「現代イスラーム世界の動態的研究：イスラーム世界理解のための情報システムの構築と情報の蓄積」（通称「イスラーム地域研究」）の目的は、以下の3点に要約する事ができる。

本研究の第1の目的は現代イスラーム世界をその動態において解析することで

ある。ここでいうイスラーム世界とは、いわゆる中東・北アフリカ地域だけではなく、ロシア・中央アジア・中国・南アジア・東南アジア・アフリカ・ヨーロッパさらには南北アメリカを含んでいる。もちろんわれわれが対象とするのは、宗教としてのイスラームに限られない、文明としてのイスラームである。このようなイスラーム世界に着目すると、ここには豊かな歴史と伝統をそなえた独自の文明とともに、民族問題・地域紛争・人口爆発・環境破壊・政治の民主化と人権の問題など、現代世界が直面する重要な問題が集約的に見いだされる。本研究はこれらの地域が抱えるイスラームに固有な宗教・政治・経済・社会・文化問題を抽出し、これを地域間比較の手法を用いて総合的に研究する。

第2の目的は、このような研究をとおして新しい地域研究の手法を開発することである。そのために、宗教学・政治学・社会学・人類学などの学問領域を越えた学融合を試みるとともに、上述地域を組み合わせ（例えば、中東とヨーロッパ、中国と南・東南アジアなど）、「共存と対立」、「法と社会」、「人的ネットワークの機能」など特定のテーマについて具体的な比較研究を実施する。しかもこの比較研究では、従来の地域研究より歴史的なアプローチを重視することになろう。歴史的アプローチはどの学問分野にも適合可能であるし、各ディシプリンによる研究成果を総合するうえでも有効だと思われるからである。

第3の目的は、国際的な共同研究の基礎整備、地理情報システムの活用、多様なデータベース構築のために、最新のコンピュータ技術の積極的な応用・開発をはかることである。多様な言語を用いるアジア研究においては、これまでコンピュータの利用はきわめて不十分であったが、この機会に各研究拠点を結ぶイスラーム地域研究情報システムを構築し、また国内におけるアラビア文字文献の総合データベースを作成する。

このような研究活動を通じて21世紀の動向を左右するイスラーム世界の動態を把握し、いまや世界最大に拡大したイスラーム地域に関する「実証的な知の体系」を築き上げること、これが「イスラーム地域研究」の最終的な目的である。具体的には、「現代思想と政治運動」、「イスラームと民主主義」、「聖者信仰と神秘主義」、「性と文化」、「所有・契約・市場の比較史」、「イスラーム史料学」、「中東・アフリカの奴隷エリート」、「イスラームにおける境域の観念」、「近現代のロシア・中央アジアのイスラームと政治」、「20世紀イスラーム世界の知識人」などをテーマとして、和文叢書（全8巻）および英文叢書（全12巻）の刊行を目指す。

また、研究の全体を統轄するために研究代表者を中心とする総括班を組織し、その下で6つの研究班、すなわち「イスラームの思想と政治」・「イスラームの社会と経済」・「イスラームと民族・地域性」・「地理情報システムによるイスラーム地域研究」・「イスラームの歴史と文化」・「イスラーム関係史料の収集と研究」などの研究班が、個々の研究課題に即して、研究会の開催、研究者の海

外派遣と海外からの招聘、国際研究集会の開催などの活動を展開することとする。  
(以下、略)

## 【第6班課題】 「イスラーム関係史料の収集と研究」

### 【目的】；

東洋文庫に拠点をおく本班は次の3点を目的にイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究を実施した。

#### 1. 資料の収集・データベース化・公開

まず、本班は研究プロジェクト全体の「資料室」としての役割を担うことにとめた。近年活発なイスラーム地域での出版活動をフォローし、現地で出版された歴史・宗教・文学・民族・社会情勢などに関する資料や研究書を広く収集し、特に前近代を対象とするイスラーム地域研究遂行のための基盤整備を行った。資料収集の対象地域は、中東・北アフリカ・中央アジア・南アジア・東南アジア・中国とした。さらに収集された資料の有効利用のため、図書情報を迅速にデータベース化した。データベース作成にあたっては、多言語図書データベース構築の経験をもつ東洋文庫の技術的蓄積を利用した。収集図書データベースは、順次、インターネットを通じて公開している。また収集図書は東洋文庫内に別置され、プロジェクト参加者をはじめとする閲覧者の利用に供している。

#### 2. アラビア文字文献所蔵図書館ネットワークの構築

上記のように、第6班ではイスラーム地域研究に必要な資料の収集に努めたが、イスラーム地域研究の効率的な遂行のためには、全国の図書館に散在する関連図書の効果的な検索もかかせない。しかし、イスラーム地域研究に不可欠なアラビア語、ペルシア語、ウルドゥー語、ウイグル語などの文献はアラビア文字で書かれているため、従来、コンピュータやインターネットの上で扱いが困難であった。このため全国の図書館でのアラビア文字文献の整理やデータベース化は著しく遅れた状態にある。本研究では、こうした状況を打開するため、アラビア文字文献所蔵図書館ネットワークを組織し、会合を重ねた。この活動は、全国の図書館のアラビア文字文献の整理・データベースを援助し、互いに互換性のあるデータベース構築をめざすものである。基礎データとしては東洋文庫で構築された東洋文庫所蔵アラビア語・ペルシア語文献データベース等を用い、図書情報データの共有を実現しつつある。また、アラビア文字文献共通データベースは適宜加工の上、インターネットを通じて広く公開している。これにより、イスラーム地域研究者の検索作業が画期的に効率化されるものと期待される。

#### 3. イスラーム地域の歴史史料に関する研究

イスラーム地域の歴史史料への理解を深め、それらを効率的に利用するための

基礎的研究を継続した。ここでは主に写本や文書などの歴史一次史料を対象とする。一冊の写本、一枚の文書に内在する世界と、それらが時代を越えて現存するにいたった背景を理解することは、それぞれの地域の文化や歴史を理解することに他ならない。本研究では、歴史文書や写本がもつ固有の構造を史料論的に検討することを通じ歴史的なイスラーム地域の基層構造に光をあてることをめざす。

研究会としては、ペルシア語文書研究会、オスマン文書研究会、アラビア語写本史料研究会、ムガル史料研究会の4研究会が言語・地域別の分科会として運営された。古文書史料を対象とするペルシア語文書・オスマン文書の2研究会では、様々な形式・内容をもつ文書群を形態論・様式論・機能論的に扱い、その理解を通じて、文書を生み出した社会の歴史的な構造・制度・慣習の比較研究を目指す。主に記述史料を対象とするアラビア語写本史料研究会、ムガル史料研究会の2研究会では、対象地域の伝統・習慣を伝える歴史叙述に注目し、それぞれの文化圏に固有の文化コードの抽出に努めた。また、地域・言語の枠を越えてイスラーム地域の歴史史料がもつ一般的特色への理解を深めるため、比較史料研究会を実施した。さらに第6班では、活動の一環として、文書や写本を扱う史料講習会を随時実施して、史料を扱う技術的な力の向上と若手研究者の育成につとめた。

#### 【研究実施概要】；

- (1) 平成12年度以後も引き続き「資料の収集・データベース化・公開」の作業を遂行した。中東諸語の図書の収集と並行して、平成12年度には中国と中央アジアのムスリム関係出版物の収集を行った。13年度には南アジアにおいて収集活動を実施する予定である。収集図書の文献情報データベースの作成、公開はこれまでに同様、随時遂行している。
- (2) アラビア文字文献所蔵図書館ネットワーク関連では、多くの参加図書館を結んだ連絡会と、実際にデータベース作成に関わる作業班の2つの組織を運営する。前者の連絡会では、アラビア文字文献を扱う上での問題点やデータベース構築の様々な手法を検討し、各図書館が作成するデータベースが互換性をもつものであるよう調整して作業を行った。後者の作業班は、「東洋文庫方式」といわれる方式を採用した機関のデータを統合し、共通データベースの作成、そのインターネット上での公開までの作業を行っている。
- (3) 平成11年度より起動したアラビア写本史料研究会・ペルシア語文書研究会・オスマン文書研究会は、それぞれ研究報告会活動をすすめつつ、一方で成果の公開にむけての活動を実施中である。すなわちアラビア語写本史料研究会は、対象としている『カリフ宮廷の儀礼』の訳注を完成させ、公刊をめざして作業した。ペルシア語文書研究会とオスマン文書研究会は、それぞれ英文による論文集を作成中である。前者は、平成10年度に実施した国際ワークショップの内

容を基礎とする。後者は、19世紀中葉のオスマン朝資産台帳に関する国際共同研究の成果を内容とする。平成12年度には、以上の研究会に加えて、ムガル史料研究会と比較史料研究会を發足した。ムガル史料研究会は現地史料の利用が遅れていたインド亜大陸のイスラーム文化圏に関する研究を促進することを目指し、史料の所在調査と研究会活動を実施している。比較史料研究会は、イスラーム世界の史料がもつ固有の性格を地域内比較、地域間比較を通じて明らかにしようとする試みで、第6班における地域・言語ごとにわかれた研究活動を統合する役割を担うことにつとめた。

【平成12年度の具体的研究実施内容】

- (1) アラビア語、ペルシア語、トルコ語の中東主要3言語の図書収集に加え、中国のムスリム関係図書を収集した。中国には当該地域での出版情勢を掌握し、今後の継続的な収集体制を構築するため2名の研究者を派遣した。
- (2) 上記の収集図書のデータベース化を推進し、さらにインターネット上での収集図書検索システムを稼働し、利用者の便宜をはかっている。
- (3) アラビア文字系文献データベース連絡会を運営し、諸種の情報交換を行っている。
- (4) アラビア文字系データベースに関し、「東洋文庫方式」を採用した7機関のデータの統合を行う作業班を編成し、共通データベースの作成とインターネット上での検索システムの開発を実施した。
- (5) ペルシア語文書研究会（3回）、オスマン文書研究会（4回）、ムガル史料研究会（2回）は、それぞれ研究会活動を実施した。比較史料研究会は年2回の研究会の他に、冬には九州史学会と共催でシンポジウムを行った。アラビア語写本史料研究会は輪読会形式の17回に及ぶ研究会を実施し、その一環として7月に、Dr. アイマン・ファフード・サイド（元カイロ国立図書館館長）を招聘して、写本講読の現地指導セミナーを開催した。
- (6) 研究会の成果公開に向けて原稿のとりまとめと出版準備作業をすすめた。
- (7) 中央アジアに関する文書史料読解のための基礎的な技術の向上をめざし、古文書講習会を実施した。そのための講師招聘を行った。

【第6班研究代表者】 北村 甫・(財)東洋文庫理事長

【研究分担者】 統括：北村 甫、永田 雄三

トルコ関係史料：永田 雄三、清水 宏祐

林 佳世子（兼・オスマン帝国資産台帳研究主宰）

イラン ♪ : 志茂 碩敏、清水 宏祐

アラブ ♪ : 三浦 徹（兼・書誌情報データベース化）

中国・中央アジア関係史料：梅村 坦  
南・東南アジア           ：小名 康之

## 基盤研究（C）—（2）

【課 題】 『『翻訳名義大集』における蔵蒙漢対照仏教語彙の基礎的研究』

【期 間】 平成12年度（新規採用、2ヶ年間）

【目 的】 ；

『翻訳名義大集』は、古代チベット王国において梵語仏典をチベット語訳するに際しての訳語の基準を定めたものとして編纂された梵・蔵対照仏教語彙集である。約9000の項目が内容別に分けられて収録されており、チベット語仏教用語に対応するサンスクリット語を知る上で、もっとも信頼のおける資料である。また、清朝時代にはモンゴル大蔵経を編纂する際にモンゴル語訳が付され、民間でも、別にモンゴル語訳と中国語訳を加えた梵・蔵・蒙・漢対照の『翻訳名義大集』が編纂された（ベテルスブルグ写本）。大正5年には榊亮三郎が后者の写本の書写ノートを元に『翻訳名義大集』を刊行し、現在に至るまで版を重ねている。しかし、榊本は時代的な制約もあり、批判的校訂本とは言い難いものであった。

そこで本研究担当者2名は、チベット大蔵経四版（梵・蔵対照のナルタン版、北京版、デルゲ版、チョーネ版）および、モンゴル大蔵経（蔵・蒙対照の北京版）、ベテルスブルク写本（梵・蔵・蒙・漢対照）を対校した『新訂翻訳名義大集』（東洋文庫、1989）を刊行した。同書は、チベット大蔵経諸版を対校したばかりではなく、従来顧みられなかった二種類のモンゴル語訳を収録した点でも画期的であったため、刊行後程なく絶版となり、再刊を求める声が多数寄せられた。しかし、同書には、漢訳語の欠如、新たな写本チベット語大蔵経の刊行、索引の欠如、モンゴル文字転写の誤読、他の仏典資料との比較をしていないなど、文献学的には不十分な点が多々あり、そのままの形で再刊することは留保してきた。本研究は、以上の問題点を解消し、梵・蔵・蒙・漢にわたる仏教語彙研究を集大成した決定版『翻訳名義大集』を作成するための基礎研究を行う。

【研究実施概要】 ；

本研究は、古代チベット王国で編纂されたサンスクリット語・チベット語対照の仏教語彙集『翻訳名義大集』を特にチベットに残された各種版本を比較校訂し、文献学的研究の基礎を固めることを目指している。

(1) 平成12年度は、8,504語彙研究の最近の成果の資料を収集した他、特に従来校

訂の不十分であったサンスクリット語彙に関して、各種版本のテキスト入力を進めた。その他に校訂に際して必要と思われる資料を収集し、従来用いられていなかった梵・藏対照の単行版本がペテルスブルク図書館にあるのを見いだした。具体的な研究は平成13年度に行う。また、従来用いられていた榊校訂本以外にも、いくつかの刊行テキストがあることが分かった。

- (2) このように増大した基礎資料を調査してゆく過程で、最初の計画とは異なった方針で校訂を進めることが必要であることが分かった。批判的校訂テキストを確定するよりも、必要にして十分な資料を確定した上で、実際の版本に記録された情報を、明白な誤記を除いて出来る限りそのまま再現することの方が、今後の研究の基礎資料としては有益である。そのため、平成13年度も引き続き、底本とするテキストの正確な入力と実際のテキストの表記を正確に反映させたテキストを提供することを最終的な目標としたい。
- (3) 索引に関しては、チベット語とモンゴル語の対照索引を作成する予定であるが、他のものについては、データベース化して検索できるようにすることで、索引に替えることにする。そのために必要な入力および表記の規則を検討している。
- (4) 平成13年度の成果としては、書誌的な調査結果をまとめると同時に、電子テキストおよびデータベースとして校訂テキストを確定する予定である。

【研究代表者】 福田 洋一研究員；統括、梵・藏・漢仏教語彙の調査

【研究分担者】 石濱 裕美子・早稲田大学専任講師；藏・蒙・漢仏教語彙の調査

## ii. 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社会的仕組みと展開に関する研究—東アジア・中央アジア・西アジアを中心に—」

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社会をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社会的しくみとその展開を地域間比較の視点から体系的な考察を実施した。また、本プロジェクトで収集した図書・資料は、下記の通りである。

区 分	和漢書	洋 書
数 量	1,150冊	407冊

本年度は、文部科学省国庫補助金事業として上記「新研究プロジェクト」の方針



のもと特に、清代史(満蒙)研究委員会、朝鮮研究委員会を中心に調査研究を進めた。  
なお、研究部12研究委員会の事業は下記の通りである。

(各委員会の中の研究課題の後に付された●印は、文部科学省国庫補助金事業費および東洋文庫  
学術情報提供費を使用して主に重点的に事業担当したことを表す。また、研究委員会の後に※  
印を付した委員会は、つぎの「キ・特別調査研究」の事業を別途に行っていることを表わす。)

### 東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員(京都大学名誉教授)の寄贈にかかる東亜考古学資料(写真、  
実測図、拓本、野帖等)の整理とその目録の作成。
- ② 「中国古代都市遺跡研究」の作成。(以上、前年度の継続)

### 古代史研究委員会

- ① 中国古代都市研究会の開催。
- ② 中国古代史研究会(中国古典籍の読書会)の開催。(以上、前年度の継続)

『水経注疏』巻十七渭水の講読会

10月7日(土)	太田 幸男、飯尾 秀幸	10月21日(土)	石黒ひさ子
11月4日(土)	松丸 道雄	11月18日(土)	石黒ひさ子
12月16日(土)	吉開 将人	1月20日(土)	吉開 将人
2月3日(土)	吉開 将人	2月17日(土)	高津 純也
3月17日(土)	高津 純也		

- ③ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

### 唐代史(敦煌文献)研究委員会

- ① 『Tun-huang and Turfan Documents concerning Social and Economic  
History-Supplement』の作成●。
- ② 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収  
集・整理。
- ③ 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献およびそれらの研究成果の公  
開、および情報の提供。
- ④ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集およびそれらに引用された出土文書  
番号の採録カード(研究文献目録補遺)の補充。
- ⑤ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。

4月15日(土)	池田 温「敦煌学百年—敦煌・吐魯番研究の近年の動向管窺」
5月20日(土)	栄 新江「中国所蔵敦煌吐魯番写本中的唐代史料」
7月8日(土)	中野 照男「クムトラ石窟の現状と問題点」
9月2日(土)	臺信 祐爾「新出のガンダーラ石彫群について—パキスタ

ン・ザールデリー遺跡調査報告一」

- 3月17日(土) 勝木言一郎「キジル石窟・クムトラ石窟におけるガルダ・イナージの展開とその解釈をめぐって—「金翅鳥」から「迦楼羅」への造形推移を中心に—」

⑥ 日本現存中国拓本(含・石刻資料)研究会の開催。(以上、前年度の継続)

宋代史研究委員会

- ① 『宋史食貨志訳註(四)(五)(六)および総索引』の作成◎。  
② 『朝野類要訳註』の作成。(前年度の継続)  
③ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項(地名、一般)および語彙索引の作成。  
④ 宋代研究文献目録および速報の作成。

明代史研究委員会

- ① 明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。(前年度の継続)

清代史(満蒙)研究委員会

- ① 「東洋文庫所蔵文檔案」の整理・研究。  
② 『The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko(鑲紅旗檔)』作成◎。  
③ 『内国史院檔(満文)』の作成◎。(以上、前年度の継続)

近代中国研究委員会※

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。  
② 近現代中国関係資料の収集、整理。  
③ 『近代中国研究彙報』第23号の編集、出版。  
④ 日中現代史研究会の開催。  
6月3日(土) 中村 義「白岩龍平と艶子について—アジア主義的実業家」  
7月15日(土) 山本 武利「アメリカ国立公文書館所蔵の上海工部局関係資料の紹介」  
10月7日(土) 石井 明「〈西安事変実証研究国際学術討論会〉に参加して」  
12月16日(土) 戸部 良一「陸軍〈支那通〉について」  
3月17日(土) 福本 勝清「中国農村社会論の現在」  
⑤ 中国調査資料研究会の開催。  
日中戦争時期の興亜院による中国調査を研究課題として、以下の活動を行った。

- 6月17日(土) 11月開催予定のシンポジウムの準備、及び興亜院関係資料の所在確認作業の今後の進め方について検討
- 9月2日(土) 下記シンポジウムに向けての予備報告；久保、金丸、弁納、本庄。

⑥ 「中国調査資料シンポジウム—興亜院とその調査を中心に」の開催。

(以下、前年度の継続)

11月24日(金) 場所：東洋文庫 参加者：60余名  
報告；柴田 善雅「中国占領地行政機構としての興亜院」

(コメント：曾田 三郎)

陳 正卿(上海市档案馆)「興亜院の文化事業—華中における興亜  
鍊成所の活動と華中興亜鍊成所の設立」

(コメント：富澤 芳亜)

松重 充浩「満鉄からみた興亜院」

房 建昌(中国社会科学院边疆史地研究中心)「興亜院の社会調査—興亜院華中連絡部の2冊の報告書から見た太平洋戦争勃発前後における日本の神道、仏教、キリスト教の上海伝道、あわせて上海在住朝鮮人のキリスト教について」(コメント：三谷 孝)

本庄 比佐子「華南における興亜院の調査」

久保 亨「興亜院の中国実態調査」

奥村 哲「〈中支那重要国防資源調査〉をめぐって」

金丸 裕一「興亜院による中国鉱業調査—実態と内容の初歩的考察」

弁納 オ一「興亜院調査から見た華中の米事情」

内山 雅生「興亜院華北連絡部の資源調査と華北農村」

日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題(Ⅳ)(Ⅴ)』の作成<sup>●</sup>。

(前年度の継続)

- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

- ① 「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題」の作成<sup>●</sup>。(前年度の継続)

- ② 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。

- ③ 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

### 中央アジア・イスラム研究委員会

- ① イスラム社会の構造の研究。
- ② イスラーム関係史料の収集と研究(イスラーム地域研究)◎。
- ③ ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
- ④ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
- ⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。(以上、前年度の継続)
- ⑥ 隊商貿易史の研究。
- ⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

### チベット研究委員会※

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
- ② チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

### 南方史研究委員会

- ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。
- ② インド亜大陸のイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究◎。
- ③ ムガル期の一次資料(ペルシア語、ウルドゥー語など)を読む研究会の開催。(以上、前年度の継続)
- ④ ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。
- ⑤ 辻文庫目録(3)、萩原文庫目録のIndexの作成。

## iii. 特別調査研究

### チベット特別調査研究(チベット研究委員会)

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】；

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。
- ② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベッ

ト人研究者の指導のもとに、分析・研究を進めた。

③『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成を継続した。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	洋 書
数 量	31冊

3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット仏教基本文献』 第6巻 A 5判 1冊 (刊行済)
- ② 『チベット論理学研究』 第8巻 B 5判 1冊 (刊行済)
- ③ 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】 ；

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書
数 量	662冊	63冊

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第23号 A 5判 1冊 (刊行済)

#### iv. その他の平成12年度研究助成金による事業

##### 1) 三菱財団人文科学研究助成金特別事業

###### ①【課題】 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究Ⅱ」

【期間】 平成10年10月～平成12年9月（2ヶ年間）

【目的】；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、各種の行政関係・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。(財)東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の研究者に貢献してきた。今回は、交渉をかさね、世界にさきがけて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所所蔵敦煌等文書をマイクロネガフィルム化することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにはチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジア諸民族の歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

【事業実績概要】；

(財)東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A、スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して収集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌等文書収蔵主要4カ国のうち、今日までにロンドンの大英図書館（旧インド省図書館の敦煌等文書を含む）約16,000点（92,000齣）、パリ国立図書館約7,000点（54,000齣）、北京図書館約9,000点（13,000齣、一説に約16,000点現存とも言われる）のマイクロフィルムを収集し、それらを広く日本および世界の研究者の利用に供するとともに、多くの研究成果を発表してきている。

そこで、本プロジェクトでは、世界屈指の内陸アジア将来文書を保有するロシア科学アカデミー東洋学研究所 St. ペテルブルク支所所蔵の非公開文書約19,000点・約

250,000齣におよぶ膨大な量のマイクロフィルムを収集することを最大の成果と考えている。また、世界にさががけて撮影したマイクロフィルムを一般公開することにより、個々の研究成果のほかに日本国内、さらには日露共同研究などの基盤をととのえ、研究体制を組織することも本プロジェクトの目的の一つである。

東洋文庫では1993年より交渉を重ねて、1996年からは三菱財団人文科学助成金等を得て、毎年、各言語の専門研究者を現地に派遣して予備調査を実施してきた。その結果、2000年9月までに収集した内陸アジア関係の年次順・言語別文書のフィルムは、西夏語、ウイグル語、コータン語、ソグド語、サンスクリット語、クチャ語、マニ文字、パルティア語、トカラ語、チベット語、満洲語、モンゴル語、漢文、アラビア語、ペルシア語、トルコ語等、合計305 Reels・198,611齣（2000年9月末現在）である。また、今後の研究の将来計画・課題としては、内陸アジア諸民族の言語のうち、これまでの言語別既収フィルムで現地調査リストに撮影漏れ等文書約50,000齣の追加収集を焦眉のこととらえている。そのために2001年4月に専門研究者を派遣する予定である。

本プロジェクトは、東洋文庫に対する三菱財団学術研究助成によるロシアSt. ペテルブルグ支所所蔵の内陸アジア諸民族関係文書資料のマイクロ化事業が、ロシアの世界的文化遺産を保全するとともに、その遺産を網羅的に収集していることに、日本国内をはじめ世界的にも多大な関心と注目が集まっている。そこで、緊急の課題として収集済みマイクロフィルムの分析・整理を実施しているが、一般公開にむけて、各言語の書誌的データを取り入れた仮目録を作成することを第一の課題とする。次に第二の課題は、東洋文庫を拠点に東洋文庫研究員をはじめとする国内の専門研究者とともに、随時、海外の専門研究者の参加を得て、内陸アジア諸民族の歴史・文化・言語・宗教・社会経済等の分野における総合的研究を早急に推進することである。

【代表者】 佐藤 次高研究部長

【分担者】 西田 龍雄、池田 温、梅村 坦、石橋 崇雄、福田 洋一の  
各研究員および熊本 裕東京大学教授

## ②【課題】 「イスラーム法廷文書の社会史的研究」

【期間】 平成11年10月～平成13年9月（2ヶ年間）

【目的】；

イスラーム法廷文書には、婚姻や相続、売買・賃貸借、債権・債務といった日常の各種の契約が記録され、オスマン朝時代のトルコ、シリア、エジプト地域の諸都市で記帳された数万冊の法廷台帳（15～20世紀）は、住民の社会生活の細部までを

照らす史料の宝庫といえる。

法廷台帳の史料としての特性は3つある。第1は、イスラーム法に則り、記載や書式や手続きが定められ、個人間の個別的な取引を一定の書式で記録していること、第2には、契約の正当性は、証人などの第三者によって保証されることから、証書をめぐって、人的ネットワークがつくられていたこと、第3に、法解釈や適用をめぐり、行政官、裁判官、住民の応酬がみられることである。

従来の法廷文書を用いた研究では、このような「法廷」の記録としての特性が見過ごされ、社会経済のデータだけが独り歩きしていた。本研究では、史料学的分析、法学的検討、データベースを用いた統計的分析を総合し、地域社会のメカニズムを解析することをめざす。

中東研究では、文書史料をもちいた社会史研究が新たな研究分野を拓いている。政治・社会の動向を、単にイスラームの制度や法に還元して理解するのではなく、個々人の行動と社会秩序の動的な関係を解析するために、法廷文書研究は、必須の課題となっている。

#### 【事業実績概要】；

##### (1) 法廷関係資料の調査

本研究の柱は、海外の文書館が所蔵する文書資料の調査にあり、予算面でもその派遣調査費用が大半を占めている。計画申請の段階では、イスラーム法廷とその台帳・証書を調査対象としていたが、法廷の地域社会における役割を検討するために、法廷に関する行政関係文書やヨーロッパの領事報告など、広く文書史料にあたっていくことにした。より具体的には研究の方法・成果を述べると、三浦徹は、英国公文書館において、1870年代の英国領事の領事報告を調査。ヨーロッパ側からみたイスラーム法廷への批判を通じて、法廷の実態を調査。ダマスカス歴史文書館（シリア）において、18世紀のサーリヒーヤ街区の法廷台帳を調査。すでに調査済みの19世紀の台帳と比較し、時代による変化を検討。永田雄三は、総理府オスマン古文書館（トルコ）において、スルターンの勅令などを調査。地方行政の裁判官（カーディー）から、地方名士（アーヤーン）への移行の実体を調査した。林佳世子は、トルコ共和国宗教総局イスタンブル・ムフティ局において、帝室ワクフ法廷の台帳を調査。帝室ワクフ法廷は、オスマン王家関係者による寄進やメッカ・メディナへの寄進財に関係する事案をあつかう法廷で、当該史料に関する研究は、ひとつの都市のなかで、イスラーム法廷が、職業や階層別にどのように分掌されていたかを調査した。大河原知樹は、ダマスカス歴史文書館（シリア）における勅令台帳およびアマラ街区議事録調査、および総理府オスマン古文書館における議会関連文書の調査。19世紀中葉のダマスカスの政治・経済状況を検討。トリポリ（レバノン）の法廷台帳の研究状況調査。清水保尚は、総理府オスマン古文書館において、財務省移



管台帳を調査。地方財務組織とイスラーム法官を介して遂行された財務行政制度の解明に着手した。

## (2) 海外研究者の招聘

エジプトから Taef Azhari 氏（ヘルワーン大学歴史学科）を招聘し、イスラーム地域研究京都国際会議および東洋文庫講演会において、研究発表を行った。

## (3) 成果とその公表

### ① 海外での研究成果発表

法廷文書研究は、海外の研究者も注目するところであり、三浦徹および大河原知樹は、海外の学会で研究発表を行った。

MIURA Toru, “Personal Networks surrounding the Salihyya Court in 19th-Century Damascus”, *Espace et société dans les villes arabes du Machreq à époque ottoman*, Damas: IFEAD, 2000 (in print). OKAWARA Tomoki, “Syrian Households in late Ottoman Period: An Introduction”, *The Family History and Middle East Studies—University of California, Berkeley*, April 7-9, 2000. (中東社会文化学会, 家族史ワークショップでの口頭発表)

### ② 法廷資料のサーヴェイ

大河原は、ダマスクス・フランス・アラブ学研究所より、オスマン時代シリアのイスラーム法廷台帳の目録を共同で編集し、公刊した。今後これをもとに、シリア、エジプト、トルコなど同時代の法廷記録の種類や形態などの比較が可能となる。法廷台帳には、多様な種類と形式があり、サンプルとなる文書の校訂や訳出を進めた。神藤智恵子（パリ、社会科学高等学院）に依頼し、16世紀ハマール（シリア）の奴隷関係の法廷文書の校訂、訳と解説を作成した（東洋文庫ホームページ掲載予定）。

### ③ 調査資料の分析

現段階は、上記の資料調査を終えたばかりの段階であり、その分析は、平成12年度10月以降の作業となる。平成12年12月の九州史学会では、イスラーム地域研究第6班（イスラーム関係資料の収集と研究）と協力し、「イスラーム法廷の世界」をめぐるシンポジウムを企画し、三浦徹、清水保尚が報告を行った。

## (4) 研究の将来計画と課題

初年度の資料調査から、イスラーム法廷は、狭義の裁判・法業務だけでなく、徴税を含めた地方行政の要となっていたこと、他方で、裁判や法手続きすべてがイスラーム法廷に一元化されていたのではなく、時代によって複数の裁判所組織が併存していたことが、明らかになってきている。地域社会における法廷の機能の研究は、地域の社会秩序がいかに形成されていたかの鍵となる問題であり、多角的な検討を行っていききたい。

平成12年10月以降には、引きつづき、資料調査のための海外派遣（2名程度）と海

外の研究者の招聘を予定している。資料の分析には、共同研究を行うことで、視野を広げ問題を掘りさげ、イスラーム地域研究第6班と連携し、日本学術振興会外国人特別研究員として来日した Brigitte Marino 氏（ダマスクス・フランス・アラブ学研究所研究員）とも協力し、国際的な共同研究の道を探りたい。

法廷文書のデータベース化については、資料の範囲が広がったために、統一した書式によるデータ作成は行わず、資料の特性に応じて、データベースを作成していくことにする。

【代表者】 三浦 徹研究員

【分担者】 永田 雄三、林 佳世子の研究員および江川ひかり立命館大学助教授

### ③ 平成12年度三菱財団人文科学研究助成金事業の新規採用

【課題】 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究Ⅲ」

【期間】 平成12年10月～平成14年9月（2ヶ年間）

【目的】；上掲①と同じ

【事業実施概要】；

1996年4月の（財）東洋文庫とロシア科学アカデミー東洋学研究所St.ペテルブルグ支所との契約調印に基づき、5・6世紀～18世紀頃の内陸アジア関係文書のオリジナル・ネガフィルム撮影・調査のプロジェクトは、当初の収集計画約25万齣の中、三菱財団人文科学研究助成金等の経費により、2001年3月現在、319 Reels 208,656齣を東洋文庫に将来することができた。

そのネガフィルム化された内陸アジア諸言語の内訳は、11～13世紀のタンゲート（西夏）語約70,000齣、6～14世紀に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル・コータン・ソグド等の諸語約14,000齣、サンスクリット語・チベット語約18,000齣、モンゴル語約12,000齣、満州語約30,000齣、5～12世紀頃の敦煌・トルファン等発見の漢文文書約15,000齣、ペルシア語約18,000齣、13～16世紀のチャガタイトルコ語約16,000齣、アラビア語約15,000齣である。本プロジェクトのマイクロ化事業は、最終段階を迎えているが、今後、撮影漏れ等文書既取フィルムの中、約50,000齣の追加収集することによって、総合的研究の基盤を達成することになる。

現時点でのフィルム反転による整理・調査についていえば、各種の宗教書のほか、6～12世紀頃の内陸アジア諸民族による東西交流の実態、特に売買契約文書や、商業流通ネットワーク構築など当時の社会経済をうかがわせる文書、各種法典類、辞

典、文学作品の原典、あるいは、清朝の満漢合璧『百二老人語録』による八旗の満州人の生活実態記録など、まさに本プロジェクトの研究目的に値する内容であることを確信した。

また、世界ではじめて収集する内陸アジア諸民族の一大文化遺産の公開・研究活動に着目すれば、敦煌等文書研究の発信基地としての東洋文庫の責任は一層重大である。国内の各言語の専門研究者の協力体制のもとに、研究基盤の整備のために言語別に文書の内容を摘録した仮書目を急ぎ作成し、総合的研究を着実に遂行することが緊急課題であると思われる。そして、この仮書目をベースに、ロシア、中国、イギリス、フランス、ドイツ等各国の専門研究者との国際プロジェクトを実施する予定である。

【代表者】・【研究分担者】；上掲①に同じ

## 2) 生科学工業株式会社寄付金特定事業

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト [プロジェクト代表：山本達郎]

【期 間】 平成10年度～同12年度（3ヶ年計画）  
当初予定された事業は完了したので、今後新たに東南アジアを含むアジア関係の資料の収集・補充を継続する。

【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

【事 業】 1) 東南アジア関係の資料の収集・補充・整理・目録の作成を終え、当初の事業を完了した。  
2) 『モリソン2世文庫目録』 B5判 1冊 (刊行済)

## V. 研究委員会

研究部の研究事業を企画・実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成12年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、奨励研究員、当該年度受入の外国人研究員、日本学術振興会特別研究員、各大学の国内研修教員受入なども各々の研究の専門分野に応じて、便宜上、12研究委員会のいずれかに所属させた。

## 第1部 中国研究

東亜考古学：飯島武次、関野 雄、田村晃一

古代史：飯尾秀幸、宇都木 章、太田幸男、堀 敏一、松丸道雄

唐代史(敦煌文献)：池田 温、菊池英夫、氣賀澤保規、妹尾達彦、土肥義和  
松本 明

宋代史：草野 靖、佐伯 富、斯波義信、竺沙雅章、千葉 熒、中嶋 敏  
長谷川誠夫、柳田節子、吉田 寅、渡辺紘良、小岩井弘光

明代史：鈴木立子、田中正俊、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、本庄比佐子、矢澤利彦、金田真滋  
佐藤仁史

## 第2部 日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦、辻本裕成  
朽尾 武、鳥海 靖、中野真麻理、宮崎修多、柳田征司、山口揺司  
和田恭幸

## 第3部 東北アジア研究

清代史(満洲・蒙古)：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫、岸本美緒  
C. A. ダニエルス、中見立夫、細谷良夫、松村 潤、王 其戈

朝鮮：井上和枝、梅田博之、大江孝男、槽谷憲一、武田幸男、古屋昭弘  
森岡 康、山内弘一、吉田光男

## 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦、片山章雄、後藤 明、小松久男、佐藤次高  
志茂碩敏、清水宏祐、薮 勇造、新免 康、杉山正明、永田雄三  
花田宇秋、林 佳世子、林 俊雄、三浦 徹、森安孝夫、八尾師 誠  
M. SABRY、高松洋一、山口(松尾)有里子、B. MARINO、大河原知樹  
チベット：川崎信定、北村 甫、立川武蔵、西田龍雄、福田洋一、星 實千代  
松涛誠達、御牧克己、山口瑞鳳

## 第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄、池端雪浦、石井米雄、小名康之、風間喜代三、辛島 昇  
永積洋子、萩田 博、原 實、山崎元一

## 2. 学 術 図 書 出 版

### 東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第82卷第1号～第4号 平成12年6月、9月、12月、平成13年3月刊  
A 5判 4冊 全606頁

### 東洋文庫欧文紀要

"Memoirs of Research Department of the Toyo Bunko" No. 58 2000年刊  
B 5判 155頁

### 東洋文庫各種研究委員会刊行物

#### 唐代史(敦煌文献)研究委員会 (特別研究資料出版A)

"*Tun-huang and Turfan Documents concerning Social and Economic History-Supplement*"  
平成13年3月刊 A 4判 A・B 390頁  
(敦煌・吐魯番出土社会經濟史文書集・補遺編)

#### 清代史(滿蒙)研究委員会 (特別研究資料出版B)

[Toyo Bunko Research Library No. 1]  
"*The Bordered Red Banner Archives in the Toyo Bunko (鑲紅旗檔)*"  
平成13年3月刊 A 5判 313頁

### 近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第23号 平成13年3月刊 A 5判 125頁

### チベット研究委員会

『チベット仏教基本文献 第6巻』	平成13年3月刊	B 5判	148頁
『チベット論理学研究 第8巻』	平成13年3月刊	B 5判	100頁
『チベット特別調査研究年次報告』	平成13年3月刊	A 5判	10頁

### 東洋文庫諸目録・其他刊行物

『東洋文庫書報』 第32号	平成13年3月刊	A 5判	120頁
『東洋文庫新着図書目録』 第48号	平成13年3月刊	B 5判	101頁
『東洋文庫年報』(平成11年度版)	平成12年8月刊	A 5判	73頁

### 3. 講演会

春期 東洋学講座（共通テーマ；近年の敦煌学の世界—敦煌文書発見100年によせて—）

第455回 平成12年5月9日（火）

「敦煌写経の歴史」

東洋文庫研究員  
京都大学名誉教授

竺沙 雅章 氏

第456回 平成12年5月16日（火）

「敦煌文書にみる庶民教育」

お茶の水女子大学助教授 伊藤 美重子 氏

第457回 平成12年5月23日（火）

「写本からみた敦煌の言語生活」

高田 時雄 氏

秋期 東洋学講座（共通テーマ；近代日本と中国）

第458回 平成12年10月10日（火）

「『十五年戦争』考」

筑波大学名誉教授

白井 勝美 氏

第459回 平成12年10月17日（火）

「孫文と日本—『日中盟約』再考—」

電気通信大学名誉教授

藤井 昇三 氏

第460回 平成12年10月24日（火）

「戦前日本の中国調査と興亜院」

宇都宮大学教授  
信州大学教授

内山 雅生 氏  
久保 亨 氏

特別講演会（不定期）

第1回 平成12年7月27日（木）

「アラビア語写本学序説」元カイロ国立図書館館長 Ayman Fu'ad Sayyid 氏

第2回 平成12年10月26日（木）

「チベット論理学における他者の排除と分別知の機能について」

デブン僧院ゴマン学堂長 ゲシュエラランバ・ツルティム・プンツォク 氏

第3回 平成12年11月24日（金）

「興亜院の社会調査」

中国社会科学院中国边疆史地研究中心副研究員 房 建 昌 氏

第4回 平成12年11月24日（金）

「興亜院の文化事業—1941～45年の興亜鍊成所—」

上海市檔案館副研究員 陳 正 卿 氏

第5回 平成12年12月7日（木）

『自筆書簡集（マジュム—アイエ・ムラーサラト）にみえる各種税制用語について』  
ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所上級研究員

Assam Urunbaev 氏

#### 4. 研 究 会（東洋文庫談話会）

・平成13年3月27日（火）

「清末民初における地方の「制度化」と政治対立—《郷土史料》の視点から—」

東洋文庫奨励研究員 佐藤 仁史 氏

・平成13年3月27日（火）

「東アジアに於ける株式会社の発生」 東洋文庫奨励研究員 金田 真滋 氏

#### 5. 学 術 情 報 提 供

##### i 研究者養成

東アジア研究 金田 真滋（東京大学・文学博士）

「19世紀東アジアの貿易資本研究」

西アジア研究 高松 洋一（東京大学 P. D.）

「オスマン朝における文書諸様式の機能と官僚機構」

中国研究 佐藤 仁史 (慶應義塾大学P.D.)

「中国近代における地方社会構造の変容と在地指導者層

—清末民初の江南地方を中心に—」

## ii 研究者の交流および便宜供与のサービス

### 1) 国内研究者の受入

小岩井 弘光 内地研究員 (国土館大学文学部教授)

「宋代兵制史の研究—中央・地方の財政との関わりにおいて—」

(平成12年度1ヶ年間・国土館大学の依頼)

### 2) 平成12年日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

山口(松尾)有里子 (お茶の水女子大学大学院修了)

「オスマン帝国中期における司法・文教組織

—「イルミエ」の発展とウラマー(イスラム学識者)—」

(平成10年度採用、同11・12年度3ヶ年間受入)

大河原 知樹 (慶應義塾大学大学院修了)

「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究：19～20世紀初頭のダマスカス」

(平成12年度採用、同13・14年度3ヶ年間受入)

### 3) 外国人研究者の受入

王 其 戈 モンゴル文化教育大学教授

「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした

中国少数民族に関する関係資料の民俗学的研究」

(平成11年9月1日～同13年8月31日・私費)

SABRY Muhammad エジプト・ヘルワーン大学助教授

「オスマン期エジプトの知と思想1517～1798」

(平成11年9月以降2ヶ年間・日本学術振興会招聘)

MARINO Brigitte ダマスカス・フランス・アラブ学研究所研究員

「オスマン時代シリア(16～18世紀)における都市領域」

(平成12年11月5日以降1ヶ年間・日本学術振興会招聘)



4) 研究者の派遣

5) 外国人研究者への便宜供与

Brunei

Haji Mahmud

Saedon bin Ang. Othman

Prof., Dr., Univ. of Brunei Darussalam.

Canada

Jack Howard

Librarian, Royal Ontario Museum, Far Eastern Library.

China (People's Republic)

吳 廣 義

中国社会科学院世界經濟・政治研究所副研究員

黃 彦 彦

広東省社会科学院孫中山研究所研究員

蕭 潤 君

孫中山故居紀念館館長

榮 新 江

北京大学歴史系教授

梅 林 林

敦煌研究院考古研究所研究員

王 震 中

中国社会科学院歴史研究所研究員

黃 正 建

〃 〃 副研究員

孫 学 雷

中国国家図書館分館副館長

殷 夢 霞

〃 出版社古籍整理影印編集室主任

木哈拜提・哈斯木

新疆大学人文学院教授

阿布力米提・拜斯爾

新疆師範大学言語文学部助教授

王 其 戈

内蒙古文化教育大学教授

鄧 小 南

北京大学中国古代史研究中心教授

許 紅 霞

〃 中文系副教授

劉 海 岩

天津社会科学院歴史研究所副研究員

羅 樹 偉

〃 〃 研究員

汪 寿 松

〃 〃 副研究員

江 沛 沛

南開大学歴史系副教授

郭 永 才

中国社会科学院秘書長、教授

何 秉 孟

〃 副秘書長、研究員

蔡 文 蘭

〃 科学局副局長、研究員

王 正 正

〃 科学局主任、副研究員

周 穎 析

〃 中日歴史研究中心辦公室秘書

周	變	藩	◇	世界宗教研究所研究員
李	錦	綉	◇	歷史研究所副研究員
林	超	民		雲南大學歷史系教授
陳	支	平	廈門大學 ◇ ◇	
曾	維	華		上海師範大學歷史系副教授
巴	兆	祥		復旦大學歷史系副教授
陳	正	卿		上海市檔案館副研究員
房	建	昌		中國社會科學院中國邊疆史地研究中心副研究員
劉	小	萌	◇	近代史研究所研究員
高	士	華	◇	◇ 副研究員
色		音	◇	民族研究所研究員
何	忠	禮		浙江大學歷史系教授
烏	·那仁巴圖			內蒙古師範大學蒙文科教授
陳	勤	建		華東師範大學對外漢語系教授
林	明	華	◇	◇ 副教授
陳	曉	芬		華東師範大學對外漢語系助教授
相	藍	欣		Prof., The Graduate Institute of International Studies.
趙		傑		北京大學東方言語系教授
張	作	義		中國農業大學言語系教授

#### China (Taiwan)

夏	麗	月		國立台灣大學圖書館特藏組主任·司書
洪	淑	芬	◇	◇ 司書
李	達	嘉		中央研究院近代史研究所副研究員
劉	石	吉	◇	中山研究所副研究員
李	貞	德	◇	歷史言語研究所副研究員
邱	澎	生	◇	◇
梁	庚	堯		台灣大學歷史系教授
劉	錚	雲		中央研究院歷史語言研究所研究員

#### Egypt

Taef Azhari	Prof., Dept. of History, Helwan Univ.
Ayman Fu'ad Sayyid	Dr., ex-Director of Institut Francais d'Archéologie Oriental du Caire.
Muhammad Sabry	Lecturer of Modern History, Dept. of History, Faculty of Art, Helwan Univ.

Muhammad Afifi Prof., Cairo Univ.

France

Veronique Beranger Senior Librarian, Ecole Nationale des Sciences de  
Information et des Bibliothèques.

Jean-Pierre Drège Directeur de l'École Française d'Extrême-  
Orient.

Brigitte Marino Researcher, Institut Français d'Etudes Arabes  
de Damas.

Stéphane Dudoignon Researcher, Institut Français d'Etudes Sur l'  
Asie Centrale (Tashkent).

Iran

Mohammad Reza Nasiri Vice President, Prof., Payan-e Noor University.

Sayyed Sadeq Sobhani Professor, Payan-e Noor University.

Faruq Kharabi Professor, Gilan University.

Ataollah Mohajerani Dr., Minister of Culture and Islamic Guidance.

Morteza Kazemi Deputy Minister in Artistic Affairs.

Seyed Mohammad

Ali Mottaghi-Nejad Director of Second Cultural Division.

Naser Kardanpur Tehrani Head of Minister's Office.

Ali Majedi Ambassador of the Islamic Republic of Iran.

Davoud Charmi Counsellor of the Embassy.

Seyed Heshmatollah

Ghalamizadeh Elyaderani Journalist of the Press Attache and Interpreter.

Israel

Boaz Shoshan Prof., Dept. of Middle East Studies, Ben-Gurion Univ.

Korea

呉 金 成 ソウル大学校東洋学科教授

朴 漢 濟 " " "

呂 燦 榮 大邱カソリック大学校国語国文学科教授

徐 聖 稿 韓国国立中央博物館学芸士

洪 鎮 根 " "

金 仁 徳 " "

李 相 泰	韓國國史編纂委員會研究員
李 薰	〃 〃
車 雍 珍	韓國國會圖書館司書

#### Myanmar (Biruma)

Daw Ni Ni Myint	Director-General, Dept. of the Universities Historical Research, Ministry of Education, Government of the Union of Myanmar.
U Thein Hlaing	Depty-Director General, Dept. of the Universities Historical Research.
U Tun Aung Chein	Member Myanmar Historical Commion.
Daw Mi Mi Kyaw	Researcher, Dept. of the Universities Historic Research, Ministry of Education, Government of the Union of Myanmar.
Naw Si Blut	〃 〃 〃
Daw Khin Thida	〃 〃 〃
U Myo U	〃 〃 〃

#### Netherlands

Oliver Moore	Lecturer, Faculty of Social Science, Leiden University.
--------------	---

#### Thailand

Trasvin Jittidejarak	Publisher Director, Trasvin Publications Limited Partnership.
----------------------	--

#### Turky

Mehmet Ölmez	Visiting Professor, Tokyo University of Foreign Studies.
--------------	--

#### U.S.A.

Anatoly M. Khzanov	Ernest Gellner Professor of Anthropology, Univ. of Wisconsin-Madison, Fellow of the British Academy.
Daniel Boucher	Assistant Prof., Department of Asian Studies, Cornell Univ. N.Y.
Mark C. Elliott	Assistant Prof., Department of History, Univ. of California (Santa Barbara).
Evelyn S. Rawski	Professor, Department of History, University of Pittsburgh, Pennsylvania.
Bruce E. Brooks	Professor, Institute of Chinese History, University Massachusetts at Amherst.

Beverly Bossler Professor, Department of History, University of California at Davis.

Pat Ebrey Professor, Jackson School of International Studies, University of Washington.

William M. Steele Professor, International Christian University.

Kanneth R. Robinson Assistant Prof., International Christian University.

Tani E. Balow Prof., Univ. of Washington.

Ramom H. Myers Dr., Curator-Scholar East Asian Collection, Hoover Institution, Stanford Univ.

### iii 研究会等への会場提供サービス

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	16	24	16	19	10	22	12	15	12	5	10	23	184回
参加人数	155	422	155	188	63	222	259	186	141	53	133	189	2,166人

### iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第81巻4号、第82巻1、2、3号	各400部
宋史選舉志訳注（三）	350部
岩崎文庫貴重書誌解題Ⅲ	350部
西藏仏教基本文献（5）	50部
近代中国研究彙報 第22号	70部
東洋文庫欧文紀要 第57号など2種	各50部

### v 参考情報提供サービス

【東洋文庫年報】 平成11年度版 A5判 1冊 73頁 (刊行済)

(上記の出版を含めて、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※なお、《5. 学術情報提供》における「図書資料の閲覧（協力）サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I. 図書事業』の項目に便宜上、一括して掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」等については、平成12年度はとくに報告することはない。

## 6. 職員の研究業績

期間：平成12年4月1日～平成13年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

### 飯島 武次

③「古代国家誕生時期的城郭都市与宗廟遺跡」（『中央研究院第三屆國際漢学会議論文摘要集』，38～39頁，台北・中央研究院，2000年6月），「濬県辛村の西周大墓」（『文化的饋贈・漢学研究國際會議論文集・考古学巻』，170～174頁，北京大学，2000年8月），「春秋戦国時代の土器・陶器」（『世界美術大全集・東洋編Ⅰ』，269～276頁，小学館，2000年9月）。

### 池田 温

②『Les manuscrit chinois de Koutcha. Fond Pelliot de la Bibliothèque Nationale de France.』（Éric Trombert avec la collaboration de Ikeda On et Zhang Guangda. Paris, Institut des Hautes Études Chinoises du Collège de France, 150p. Pl. 54p. 2000年7月），③「『貞観政要』之日本流伝与其影響」（国学研究（北京大）6，87～116頁，1999年11月），「『貞観政要』之日本流伝与其影響（提要）」（『文化的饋贈——漢学研究國際會議論文集 史学巻』北京大学中国伝統文化研究中心編，北京大学出版社，147～149頁，2000年8月），④「中国古代史——上古から隋唐」（東方学100，29～51頁，2000年9月），「第36回國際アジア・北アフリカ研究会議 敦煌・トゥルファン研究」（東方学会報79，22～25頁，2000年12月），「Symposium II : Tun-huang and Turfan Studies : History, Language and Art.」（Transactions of the International Conference of Eastern Studies XLV，89～98頁，2000），「二〇〇〇年敦煌学國際學術討論會」（東方学101，178～180，182～184，190頁，2001年1月），「〈唐令〉復原研究の現在」（UP 340，12～17頁，2001年2月），⑤平岡武夫著『白居易一生涯と歳時記』（唐代史研究3，110～117頁，2000年6月），⑦「日本的敦煌・吐魯番研究」（敦煌研究院，藏經祠發現100年記念國際學術研討会，2000年7月29日），「The Historical Development of Sinocentrism 中華思想」（Montreal The 36<sup>th</sup> ICANAS，2000年8月29日），「近年の敦煌吐魯番研究」（大邱，慶北大学校歴史教育科，2000年11月24日），「唐令復元研究에 대하여」（서울，漢城大学校東아시아研究所，2000年11月25日），創価大学6年半（創価大学ニュース25，21頁，2000年4月），「官僚」（月刊しにか11—5，34～37頁，2000年5月），「はがき通信」（日本歴史625，143頁，2000年6月），「敦煌学百年の歩み」（聖教新

聞2000年7月15日、6面)、「一語一会、落日故人情」(朝日新聞2001年正月10日夕刊、13面)、「スタイン」(『20世紀の歴史家たち(4)世界編』下、3～17頁、刀水書房、2001年2月)。

石橋 崇雄

- ③「無圈点満洲文檔案『先ゲンギェン=ハン賢行典例・全十七条』(国史館史学8、48～96頁、2000年3月)、「The Manju Dynasty: An Introduction to the Study of the Qing State.」(“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 58、19～49頁、2000年)、⑦「多民族国家清朝の支配構造をめぐって」(内陸アジア史学会・平成12年度大会・公開講演、桃山学院大学、2000年11月11日)、⑧「天安門」(月刊しにか11-4、30～31頁、大修館書店、2000年4月)、「後宮の暮らし——御花園・東六宮・西六宮・皇極殿・慈寧宮など」(月刊しにか11-4、36～41頁、大修館書店、2000年4月)、「フリーク向け故宫名所案内」(月刊しにか11-4、50～55頁、大修館書店、2000年4月)、「中国史のなかの宦官」(月刊しにか11-11、16～24頁、大修館書店、2000年11月)、「中国の歴史を読む本——①通史・概説」(月刊しにか12-4、14～15頁、大修館書店、2001年4月)。

井上 和枝

- ③「1920～30年代の朝鮮社会と『新女性』の恋愛・結婚」(比較家族史研究15、45～68頁、2001年3月31日)、④「朝鮮女性史における『新女性』研究の新たな動向」(国際文化学部論集2、97～103頁、鹿児島国際大学国際文化学部、2000年10月)、⑦「朝鮮女性史研究の新しい展開のために」(第5回環太平洋韓国学国際会議、2000年9月21日、中国北京大学)、「朝鮮『新女性』における旧来の恋愛・結婚観の変革」(韓日国際シンポジウム『近代的女性像の韓・日比較』、2000年11月30日、韓国精神文化研究院、韓国城南市)。

上野 英二

- ③「光源氏須磨の日記—源氏物語の文学史制覇—」(成城国文学論集27、51～106頁、成城大学大学院文学研究科、2001年3月)、③「岩崎文庫貴重書誌解題稿—古写本之部・古刊本之部補遺(一)—」(東洋文庫書報32、1～8頁、(財)東洋文庫、2001年3月)。

梅村 坦

- ③「シルクロード：異文化圏を結ぶ通商ネットワーク」(『地域の世界史3 地域の成り立ち』132～172頁、山川出版社、2000年6月)、「オアシス世界の展開」(『新版世界各国史4 中央ユーラシア史』89～142頁、山川出版社、2000年10月)、⑧

「中国西北地区・新疆の旅から——イスラームを中心に 1. 西北地区の回族たち」(歴史と地理541, 32~40頁, 山川出版社, 2001年2月), 「『乾燥地考古学の回顧と展望』特集にあたって」(砂漠研究10—2, 79~80頁, 日本砂漠学会, 2000年7月)。

#### 海野 一隆

③「わが国におけるポルトラーノ海図の受容」(有坂隆道・浅井允晶編『論集日本の洋学』V, 7~82頁, 清文堂, 2000年5月), 「地球図をあしらった南蛮屏風——在ミュンヘン本について——」(史林83—3, 144~156頁, 史学研究会, 2000年5月), 「『日本カルタ』の出現と停滞」(洋学・洋学史学会研究年報9, 9~52頁, 洋学史学会, 2001年3月), ④「ハーリ地図学史研究奨学金2000年度授与決定」(科学史研究216, 201頁, 日本科学史学会, 2000年12月; 地図38—4, 53頁, 日本国際地図学会, 2000年12月), 「ハーリ地図学史研究奨学金第8回授与決定」(科学史研究217, 11頁, 日本科学史学会, 2001年3月; 地図39—1, 34頁, 日本国際地図学会, 2001年3月), ⑧「エスカランテの漢字」(月刊しにか11—4, 90~97頁, 大修館書店, 2000年4月), 「クックの航海を助けた現地人」(日本古書通信65—5, 7~10頁, 日本古書通信社, 2000年5月), 「1543年スペイン人命名のラス・ドス・エルマナス(二人姉妹島)とアブリオホス(目を開け島)の位置について」(『大東諸島史年表』, 220頁, 沖縄県北大東村役場, 2000年9月), 「地図」(『日本歴史大事典』第2巻, 1028~1031頁, 小学館, 2000年10月), 「『清水物語』の作者」(日本古書通信65—10, 4~6頁, 日本古書通信社, 2000年10月), 「南瞻部洲万国掌葉之図」(『日本歴史大事典』第3巻, 200頁, 小学館, 2001年3月), 「図形成立年代と描画年代——川村氏の拙稿批判論文を読んで——」(地図39—1, 28~30頁, 日本国際地図学会, 2001年3月)。

#### 大江 孝男

⑧「三根谷徹先生を偲んで」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信100, 9~10頁, 2000年11月25日)。

#### 岡田 英弘

①『歴史とはなにか』(文藝春秋, 文春新書155, 2001年2月, 222頁), ③「2モンゴルから始まった世界史」(『地球日本史1 日本とヨーロッパの同時勃興』, 扶桑社文庫3—1, 45~64頁, 扶桑社, 2000年12月, 再録), ⑦“Original Version of the Mysterious *Toregut Rarelro* : Toyin Gelüing Gelugh Choghdan's *Unen süsü ghtü qaghucin torghud ba, basa cing sedkiltü sin-e torghud ayimagh-un qaghan noyadyin iledkil tüüki-yin bicig bui*” (43rd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Lanaken, Belgium, Monday 4, September, 2000), ⑧



「歴史とはなにか」(山陽放送ラジオ, 旬ネタよるよるラジオ, 2001年3月13日)。

#### 糟谷 憲一

②武田幸男編『新版世界各国史 2 朝鮮史』(山川出版社, 2000年8月, 本文436頁+索引等84頁, [第5, 第6章を分担])。

#### 辛島 昇

①『海のシルクロード——中国・泉州からイスタンブールまで』(写真・大村次郷, 集英社, 2000年4月, 119頁), *History and Society in South India: The Cholas to Vijayanagar* (Oxford University Press, India, March, 2001, 591pp.), ②『辺境の世紀末——二十世紀の意味を解きあかす「辺境」からの物語』(執筆: 大室幹雄, 辛島昇, 川田順造, 川端香男里, 鼓直, 橋本萬太郎, 平凡社, 2000年10月, 366頁)。

#### 川崎 信定

③「善巧方便と智慧」(『加藤純章博士還暦記念論集・アビダルマ仏教とインド思想』, 237~250頁, 春秋社, 2000年10月), 「チベット研究の状況と可能性」(東方学100, 146~162頁, 東方学会, 2000年9月), 「仏教における智慧」(吉田宏哲編『仏・智慧と教え』〈大正大学オープンカレッジ夏期公開講座・緑陰講座第4回〉, 111~145頁, 青史出版, 2000年3月), 「仏とは——大乘仏教の考え方——」(大法輪2000年7月号, 70~73頁, 大法輪閣, 2000年7月), 「チベット大蔵経諸版成立史研究序説(資料翻訳篇)」(東洋大学文学部紀要54・印度哲学科篇26東洋学論叢・田村晃祐教授退任記念号, 71~95頁, 東洋大学, 2001年3月), ⑤「ジョナサン・A・シルク著『チベット語訳〈般若心経〉2系統校訂テキスト』」(東洋学報82-3, 01~06頁, 東洋文庫, 2000年12月), ⑦「般若心経以前・以後」(高野山観学会, 2000年7月25日), 「インド大乘仏教とチベット仏教」(財団法人東方研究会・東方学院公開議義, 2000年9月11日, 9月25日, 10月23日, 11月20日, 11月27日), 「死者の書をいきる」(第22回回光麗祭記念講演・日本ヨーガ光麗会・宇治市神明石塚, 2000年10月22日), 「釈尊のお教え——なぜ法事をするのか——」(神奈川県仏教会成道会記念講演・於横浜市大平町西有寺, 2000年11月13日), 「チベット仏教の自然観」(国際仏教学大学院大学講演会, 2000年11月22日), 「『チベットの死者の書』からのメッセージ」(東洋大学東洋学研究所公開研究発表例会, 2000年11月25日), ⑧「恩師中村元先生」(東方学99, 200~204頁, 東方学会, 2000年1月), 「弔辞(門弟代表)」(東方15・中村元博士追悼号, 116~118頁, 東方研究会, 2000年9月), 「東洋大学東洋学研究所——「東洋」の名を冠した研究所——〈紹介・東洋大学附置研究所(2)〉」(TOYO UNIVERSITY〈東洋大学校友会報〉, 13頁, 2000年2月), 「『チベットの死者の書』からのメッセージ」(研究発表例会

11月25日発表要旨；東洋学研究38, 139～140頁，東洋大学東洋学研究所，2001年3月），「快樂と禁欲，生と死 [仏教]，樂」（中村元監修，峰島旭雄責任編集『比較思想事典』，68～70，313～4，538～9頁，東京書籍，2000年8月）。

神田 信夫

②「*The Borderd Red Banner Archives in the Toyo Bunko I*」（Toyo Bunko Research Library 1, Tokyo, 2001, XXXII+282 pp., 共著）、③「關於《歴代宝案》的第二集」（中国第一歴史檔案館編『明清檔案与歴史研究論文集——慶祝中国第一歴史檔案館成立70周年』上册271～279頁、北京 中国友誼出版公司、2000年4月）、⑤「王鐘翰著『王鐘翰學術論著自選集』」（滿族史研究通信9、147～148頁、滿族史研究会2000年4月）、⑧「『百二老人語録』を求めて」（滿族史研究通信9、17～20頁、滿族史研究会、2000年4月）、「藤枝晃先生追悼文集刊行会編『藤枝晃』、92～94頁、自然文化研究会、2000年6月）。

草野 靖

③「宋代以後における田税催徴法の変遷」（福岡大学人文論叢32—2，1353～1397頁，福岡大学総合研究所，2000年9月），「中国古代における賦税制の発展」（福岡大学人文論叢32—4，2719～2761頁，福岡大学総合研究所，2001年3月）。

氣賀澤 保規

②「『世界四大文明 中国文明展』図録」（監修（共），NHK，2000年8月，215頁），③「中公文庫『中国文明の歴史』解説」（『中国文明の歴史4（分裂の時代）』，419～435頁，中央公論新社，2000年5月），「唐代社会と壁画墓——三太子壁画墓の周辺」（『世界四大文明 中国文明展』図録，NHK，197～199頁，2000年8月），「法門寺の宝物」（月刊しにか2000—12，84～90頁，大修館書店，2000年11月），「北朝隋的“軍人”与隋開皇三年的課役規定」（唐研究6，139～154頁，北京大学出版社，2000年12月），「隋仁寿元年（601）の学校削減と舍利供養」（駿台史学111，17～35頁，駿台史学会，2001年2月），④「日本唐代史関連研究成果目録（1999年）」（唐代史研究3，146～164頁，唐代史研究会，2000年6月），⑤「宮崎市定著『中国古代史論』（あろーら特別号「21世紀の必読書100選」，266～269頁，21世紀の関西を考える会，2000年12月），⑦「中国・法門寺の秘宝と真身舍利」（佛教大学四条センター春期公開講演会，2000年5月21日），「遣隋使のみた隋の風景」（第49回東北中国学会大会（公開講演），2000年5月27日），「法門寺とその秘宝」（京都茶道資料館主催・シンポジウム「茶の源流——唐代・宋代の茶法——」，2000年7月1日），「敦煌の歴史社会と敦煌学——敦煌文書発見100周年に寄せて——」（明治大学公開講座，2000年5月～7月），「中国からみた遣隋使——遣隋使1400年に寄

せて——」(シルクロードの会, 2000年9月22日), 「6世紀後半の華北仏教と山東青州龍興寺石仏群」(北陸史学会, 2000年10月24日), 「九世紀の山東半島」(国学院大学主催・シンポジウム「九世紀東アジアの交流と日本」, 2000年11月11日), 「シルクロードを駆け抜けた仏教者たち」(明治大学公開講座, 2000年10~12月), ⑧「中国の歴史を読む本——六朝~隋唐」(月刊しにか2001—4, 20~23頁, 大修館書店, 2001年3月)。

#### 小松 久男

② *Migration in Central Asia: Its History and Current Problems* (Komatsu Hisao, Obiya Chika & John S. Schoeberlein eds., The Japan Center of Area Studies, March 2000, 5+245pp.), 『世界民族事典』(共編, 弘文堂, 2000年7月, 22+1211頁), 『新版世界各国史4 中央ユーラシア史』(共著, 山川出版社, 2000年10月, 本文456頁+索引等95頁), ③「バルトリド」『20世紀の歴史家たち(4)』(尾形勇・樺山紘一・木畑洋一編, 37~53頁, 刀水書房, 2001年2月), ⑦“Japan as Reflected in the Jadid Writings at the Turn of the 20th Century” (International Symposium on *East Asia and the Muslim World: Relations between Japan and the Muslim World in a Century*, 29 May 2000, United Nations University), “Reform and Rebellion in Central Asia at the Turn of the 20th Century: The Search for a True Islam” (International Conference: *Central Asia and Islam*, Vienna, 19 June 2000), “The Andijan Uprising Reconsidered” (*Muslim Societies over the Centuries*, Specialised Themes in the 19th International Congress of Historical Sciences, University of Oslo, 9 August 2000), 「中央アジアのイスラーム復興: ウズベキスタンを中心に」(千葉市民文化大学, 2000年9月15日), “Muslim Intellectuals and Japan: Abdurreshid Ibrahim’s Strategy, Liberation of the Muslim World from Western and Russian Rule” (International Symposium: *Intellectuals in Islam in the 20th Century*, Islamic Area Studies Project, 13 October 2000, Tokyo), 「中央アジアと日本を結んだ男: アブデュルレシト・イブラヒムの軌跡」(日本中東学会公開講演会「広がるイスラーム・動くイスラーム」, 慶応大学, 12月2日), ⑧「中央アジアの大国ウズベキスタン: イスラーム復興と新しい歴史像の形成」(『ACF講座講演集1 中央アジアを知る』, 38~47頁, 財団法人アジアクラブ, 2000年3月), 「事典項目: 「中央アジア(地域概説)」 「サルト」 「アルメニア(中央アジア)」 「アラブ(中央アジア)」」(『世界民族事典』所収)。

#### 佐伯 富

③「中国近世における山西商人(宋代Ⅰ)」(問題と研究29—10, 27頁, 2000年7月), 「中国近世における山西商人(宋代Ⅱ)」(問題と研究29—11, 26頁, 2000年

8月),「中国近世における山西商人(宋代Ⅲ)」(問題と研究30—1, 38頁, 2000年10月)。

### 佐藤 次高

①『聖者イブラーヒーム伝説』(角川叢書, 2001年3月, 242頁), ②『地域の地域史』(『地域の世界史』9, 共編, 山川出版社, 1999年6月, 405+19頁), ③「イスラーム国家論——成立としくみと展開——」(岩波講座「世界歴史」10, 3~68頁, 岩波書店, 1999年10月), 「アラブ・イスラーム世界の拡大」(辛島昇・高山博編『地域の成り立ち』, 18~51頁, 山川出版社, 2000年6月), “Jurisprudence and Political Leadership in the Syrian Coastal Towns of Tripoli and Jabala: *Qaḍīas* during the 11th-12th Centuries,” (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, 57, pp. 201~216, The Toyo Bunko, 1999), “Slave Elites in Islamic History” (Introduction to *Slave Elites in the Middle East and Africa: A Comparative Study* ed. by Miura Toru and John E. Philips, Kegan Paul International, London, 2000, pp. 1~9), “Ushr,” (*The Encyclopaedia of Islam*, vol. 10, E. J. Brill, Leiden, 2000, pp. 917~919), ④「西アジア・イスラーム学の継承と発展——ヨーロッパ・中東・日本——」(東方学100, 163~177頁, 2000年9月), ⑤「アフマド・Y・アルハサン, ドナルド・R・ヒル著(多田博一, 原隆一, 齊藤美津子訳)『イスラーム技術の歴史』(学鐙96—9, 40~43頁, 丸善, 1999年9月), ⑦「20世紀のイスラームが提示するもの」(第5回中東を知るセミナー, 中東調査会, 1999年7月30日), 「聖者イブラーヒーム伝説の成立と拡大」(東方学会全国会員総会, 1999年11月5日, 要旨: 東方学会報77, 1~2頁), 「聖者イブラーヒーム伝説を追って——シリア・トルコ・エジプト・イラン・中国・東南アジアへの旅——」(東京大学東洋史談話会, 1999年11月14日), 「イスラーム史のなかの女性: エジプトの女性スルタン」(「イスラームと女性: 他文化理解の視点」イスラーム地域研究プロジェクト・大阪女子大学女性学研究センター, 2000年1月29日), 「ピラミッドとイスラームの国へ砂糖の歴史を考える」(都岡地区センター, 2000年10月12日), “Islam in Asia: Perspectives from Middle Eastern Studies” (The 3rd Conference of Asian Federation of Middle Eastern Studies Associations, 15 May 1999, Tokyo Keizai University), “Muslim Societies over the Centuries: Symbiosis and Conflicts in Comparative Aspects” (Keynote Speech at the session of the 19th International Congress of Historical Sciences in Oslo, August 9, 2000), ⑧「アラブ・イスラーム研究者への道」(『鶴ヶ峰——創立50周年記念誌』, 34頁, 鶴ヶ峰中学校, 1999年11月), 「イスラーム研究 焦眉の課題」(『読売新聞』, 2000年9月18日夕刊)。

妹尾 達彦

③「環境の歴史学」(アジア遊学20, 4~26頁, 勉誠出版, 2000年10月), ④「日中共同研究「中国黄土地帯の都城と生態環境史の研究」1997-99年」(唐代史研究3, 75~78頁, 2000年6月), 「ソウルの春」(白東史学会会報26, 1~4頁, 中央大学東洋史研究室, 2001年3月), ⑤「中国の男たち」(東方237, 18~22頁, 東方書店, 2000年11月), 「唐長安碑—唐の王都の生活空間」(月刊しにか2001—3, 52~55頁, 大修館, 2001年3月), ⑦「詩のことば, 権力のテクスト—中唐における「科挙文学」の成立」(中国社会文化学会大会, 2000年6月17日, 東京大学), 「韋述『兩京新記』と8世紀初頭の中国社会」(第1回中国史学国際会議, 2000年9月15日, 早稲田大学), 「唐長安城と関中平野の灌漑システム」(東洋史研究会大会, 2000年11月3日, 京都大学, 要旨; 東洋史研究59—3, 106頁, 東洋史研究会, 2000年12月), 「隋唐洛陽城研究の新動向」(白東史学会大会, 2000年11月25日, 中央大学駿河台記念館, 要旨, アジア史研究25, 104~105頁, 白東史学会, 2001年3月), 「唐代洛陽」(2001年東亜文化研究所国際学術会議, 2001年2月17日, 韓国ソウル大学, 要旨: 『中国都市構造と社会変化』25~26頁, ソウル大学校人文大学東亜文化研究所, 2001年2月)。

武田 幸男

②『新版世界各国史2 朝鮮史』(山川出版社, 2000年8月, 本文436+索引等84頁), ③「〈水谷旧蔵精拓本〉の実像を求めて」(朝鮮文化研究7, 1~23頁, 東京大学大学院人文社会系・文学部朝鮮文化研究室, 2000年3月), 「《広開土王碑》火難説の批判的検討」(慶北史学23, 37~64頁, 韓国テグ・慶北史学会, 2000年3月), 「広開土王碑〈碑文抄本〉の研究」(『国際書学研究/2000』国際書道史学会編, 438~447頁, 萱原書房, 2000年9月), 「《広開土王碑》の土難・水難・火難」(朝鮮学報176・177, 185~203頁, 朝鮮学会, 2000年10月), ④「朝鮮史学の一世紀」(東方学100, 127~136頁, 東方学会, 2000年9月)。

立川 武蔵

①『アジャントとエローラ』(写真: 大村次郷, 集英社, 2000年6月, 118頁), ②『Three Hundred and Sixty Buddhist Deities』(共編者〈森雅秀, 山口しのぶ〉, Adroit Publishers, New Delhi, 2001年1月, 385頁), ③「井上円了の仏教思想」(印度学仏教学研究49—1, 12~20頁, 日本印度学仏教学会, 2000年12月), ④「『シリーズ密教』完結にあたって——密教とボン教——」(春秋419, 17~18頁, 2000年6月), ⑥「カーリダーサ『王子の誕生』第二章和訳」(『加藤純章博士還暦記念論集』, 499~519頁, 春秋社, 2000年10月), ⑧「仏教思想とキリスト教神学」(大法輪68—1, 92~95頁, 大法輪閣, 2001年1月)。

クリスチャン・ダニエルス

①『雲南物質文化：生活技術巻』（雲南教育出版社，2000年5月，371頁），③「Sugarcane Roller Mills in the Dai Cultural Area During the 19th and 20th Centuries; Technological Innovation Without a Strong Market」（『História E Tecnologia Do Acúcar』，389～417頁，Centro de Estudos de História do Atlântico Secretaria Regional Do Turismo E Cultura，2000），「The Formation of Tai Polities Between the 13th and 16th Centuries: The Role of Technological Transfer」（『Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko』No. 58，51～98頁，（財）東洋文庫，2001年3月），⑦「西南中国少数民族伝統技術の特徴」（東洋大学2001年度新文学部スタート記念学術シンポジウム「西南中国諸民族の生活と技術」，2000年10月14日），「Origin of the Vertical Wedge Oil Press; The Implications of New Evidence from the Dai Cultural Area」（台湾高雄市国立科学工藝博物館，A Symposium on the History of Science in Commemoration of Centennial of the Birth of Joseph Needham，2000年12月9日），「東南アジアと東アジアの境界～①シャン文化圏の概況」（国際交流基金アジアセンター「アジア理解講座 交錯する地域・民族・文化～周辺からみたアジア」，2001年3月6日），「東南アジアと東アジアの境界～シャン文化圏～1 シャン文化圏の歴史」（国際交流基金アジアセンター「アジア理解講座 交錯する地域・民族・文化～周辺からみたアジア」，2001年3月13日），⑧「紙すき」（『歴史学事典；第八巻・人と仕事』，109頁，弘文堂，2001年2月15日）。

竺沙 雅章

①『宋元仏教文化史研究』（汲古書院，汲古叢書25，2000年8月，603頁＋索引13頁），②『中国文明の歴史6 宋の新文化』（佐伯富編，中央公論新社，中公文庫，2000年7月，423頁），③「燕京・大都の華嚴宗——宝集寺と崇国寺の僧たち——」（大谷大学史学論究6，1～26頁，大谷大学，2000年3月実は11月），「遼代の仏教とその影響」（駒沢大学仏教学部論集31，57～75頁，駒沢大学仏教学部，2000年10月），⑦「敦煌写経の歴史」（（財）東洋文庫春季東洋学講座，2000年5月9日，要旨：東洋学報82-2，130～131頁，（財）東洋文庫，2000年9月），「写経より見た敦煌仏教史——敦煌研究の回顧を含めて——」（中国中世史フォーラム，2000年7月31日），「シンポジウム仏事法会と社会，基調報告①中国史上の追善供養（仏教史学会第51回学術大会，2000年10月21日），「元代の大蔵経」（1999年大谷学会春季講演会講演要旨：大谷学報79-3，47～58頁，大谷大学，2000年7月）。

辻本 裕成

③「源氏物語の男女関係・結婚・性のあり方」(『源氏物語と王朝文化』(源氏物語研究集成第12巻), 41~78頁, 風間書房, 2000年10月), ⑦「貴族女性と「家」」(中京大学国文学会秋季大会, 2000年11月11日), ⑧「『源氏大鏡』注釈稿 桐壺巻」(南山日本文化学科論集1, 2001年3月)。

鶴見 尚弘

⑦「中国の耕地面積について」(近代史研究会, 2000年4月24日), ⑧「高水準の土木と鑄鉄の技術が可能にした古代中国の巨大遺構, 万里の長城」・「氷河の雪解け水がオアシスをつくったシルクロードに残る諸民族の興亡」(70~86頁, 260~269頁, 樋口隆康監修『沈黙の古代遺跡, 中国・インダス文明の謎』講談社+a文庫, 2000年10月)。

栃尾 武

③「猿投神社蔵白氏文集卷第三貞治二年点一本文・翻字・訓点本」(調査研究報告21, 1~42頁, 国文学研究資料館文献資料部, 2000年9月), 「南船北馬考——語の由来を求めて」(新しい漢字文教育31, 39~47頁, 全国漢文教育学会, 2000年12月), 「京大本紫明抄天理本河海抄引用漢籍注考證稿帝木中」(成城大学国文学論集27, 25~49頁, 成城大学大学院文学研究科, 2001年3月)。

鳥海 靖

②『日本史事典』(藤野保・岩崎卓也・阿部猛・峰岸純夫氏と共編著, 朝倉書店, 2001年1月, 本文840頁+索引等16頁), ③「History Education and History Textbooks in Primary and Secondary Education in Japan」(『Follow-up Meeting to the Seminar on “The teaching of history in multicultural societies and border areas”』 pp. 60~68, Council of Europe 〈欧州評議会〉, June 2000), 「The Teaching of History on Japanese-Russian Relations in Japan's School Education——from the late 19th Century to the early 20th Century」(『Follow-up Meeting to the Seminar on “The teaching of history in multicultural societies and border areas”』 pp. 75~82, Council of Europe 〈欧州評議会〉, June 2000), ⑦「近代日本の国際環境と対外政策——19世紀末から20世紀初めを中心に」(日印歴史認識会議, 国際教育情報センター主催, 東京, 2000年6月17日), 「19世紀末から20世紀初めにおける日本の外交政策と日露関係」(第2回日露歴史教育会議, 国際教育情報センター・欧州評議会〈Council of Europe〉主催, 東京, 2000年10月27日), 「日本の近代史」(タイ国技術者研修事業, 海外技術者研修協会横浜研修センター, 横浜, 2000年5月12日), 「日本の歴史——近代」(韓国中学高校教員グループ紹聘事業, 国際交流基金主催, 東京, 2000年9月22日), ⑧「明治天皇と近代日本」

(伊藤隆氏と対談、『本郷』31, 2～9頁, 吉川弘文館, 2001年1月)。

#### 中嶋 敏

③「銀川 水と土」(歴史と地理534, 28～29頁, 山川出版社, 2000年5月), 「宋金交戦における陳遵の死——史傳変遷試論——」(東洋研究136, 29～45頁, 大東文化大学東洋研究所, 2000年9月), ④「中国金属文化史と貨幣史の研究」(東方233, 2～4頁, 東方書店, 2000年7月)。

#### 永積 洋子

①『平戸オランダ商館日記 近世外交の確立』(講談社・学術文庫, 2000年6月, 331頁), ③“Ayutthaya and Japan: Embassies and Trade in the Seventeenth Century” (Kennon Breazeale (ed.) *From Japan to Arabia: Ayutthaya's Maritime Relations with Asia* pp. 89～103. The Foundation for the Promotion of Social Sciences and Humanities Textbooks Project. Bangkok, 1999), 「18世紀の貿易衰退とロシアの接近」(レオナルド・プリュッセイ, ウィレム・ヘッセリンク, イフォ・スミッツ編『日蘭交流400年の歴史と展望』, 75～96頁, (財)日蘭学会, 2000年4月), “The Decline of Trade and Russian Expansion in East Asia” (Leonard Blussé, Willem Remmelink, Ivo Smits (eds.) “Bridging the Divide, 400 Years The Netherlandi-Japan,” pp. 57～72, TELEACNOT, Hotei Publishing, April 2000)。

#### 中野 真麻理

③『『喜安日記』の一伝本』(調査研究報告21, 91～211頁, 国文学研究資料館文献資料部, 2000年9月), 「稚荷新左衛門のこと」(国文学研究資料館紀要27, 199～228頁, 国文学研究資料館, 2001年3月)。

#### 中見 立夫

②『新版世界各国史4：中央ユーラシア史』(小松久男ほかと共著, 山川出版社, 2000年10月, vi+456+95頁), ③『《百二老人語録》の諸問題——稲葉岩吉博士旧蔵本の再出現とウランバートル国立図書館本をめぐる——』(満族史研究通信9, 21～43頁, 満族史研究会, 2000年4月), 「日本人と《実録》」(中国第一歴史档案館編『明清档案与歴史研究論文集——慶祝中国第一歴史档案館成立70周年』上册, 305～321頁, 北京: 中国友誼出版公司, 2000年4月), 「稲葉岩吉博士と《百二老人語録》」(*Proceedings of the 4th Seoul International Altaistic Conference —— Altaic Studies and Philology ——*, pp. 51～70, Seoul: The Altaic Society of Korea, 2000), 「ナショナリズムからエスノ・ナショナリズムへ——モンゴル人メ



ルセにとっての国家・地域・民族——」（毛里和子編『現代中国の構造変動 7：中華世界——アイデンティティの再編——』, 121～149頁, 東京大学出版会, 2001年2月）, 「稲葉君山の旧蔵書を追って」（『平成12年度科学研究費補助金研究成果中間報告書：台湾・朝鮮・満州に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本古典籍の書誌的研究』, 23～36頁, 松原孝俊, 2001年3月）, 「衛藤利夫と『韃靼』——戦前期中国東北地区における図書館と図書館人——」（同上書, 76～93頁）, ④「セッションⅢ：モンゴル研究と国際協力」（『日本・モンゴル文化フォーラム：21世紀に向けた新たな文化交流・協力を目指して』, 68～72頁, 国際交流基金アジアセンター, 2000年3月）, 「東アジアの社会変容と国際環境, 平成11年度第1回（通算第14回）研究会, セミナー：東北アジア——史料が語る地域社会像——」（通信99, 36～38頁, アジア・アフリカ言語文化研究所, 2000年7月）, ⑦“Some Remarks on the *Emu Tanggû orin sakda i sarkiyān* (the First International Conference on the Manchu-Tungus Studies, Bonn, University of Bonn, 2000年8月30日）, 「稲葉岩吉博士と《百二老人語録》」（The 4th Seoul International Altaistic Conference——Altaic Studies and Philology——Seoul, Seoul National University, 2000年10月23日）, 「近代の幻想：アジアにおける“地域”と“民族”」（アジア理解講座：交錯する地域・民族・国家～“周縁”からみたアジア～, 2001年1月16日, 国際交流基金アジアセンター）, ⑧「モンゴル関係地名編集・解説執筆」（正井泰夫・中村和郎監修『平凡社エリアアトラス：最新増図で知る中国・東アジア』, 平凡社, 2000年3月, 総237頁）, 「“アラビアのロレンス” VS. “アジアのロレンス”」（日本歴史627, 34～35頁, 2000年8月）, 「“国民”と“人民”のあいだ」（伊藤隆主宰『近代日本研究通信』30, 53頁, 2000年10月）, 「モンゴル」（平野健一郎監修『対日関係を知る事典』, 113～115頁, 平凡社, 2001年2月）。

## 林 俊雄

②「草原世界の展開」（『新版世界各国史4：中央ユーラシア』, 15～88頁, 山川出版社, 2000年10月, 本文456頁＋索引等95頁）, ③「グリフィンの役割と図像の発展——前五世紀まで——」（『西鶴定生博士追悼論文集：東アジア史の展開と日本』, 95～110頁, 山川出版社, 2000年3月）, ⑥「タバルディエフ著『アク＝ベシム出土釈迦如来坐像』」（シルクロード研究2, 91～95頁, 創価大学シルクロード研究センター, 2000年3月）, ⑧「1999年度モンゴル調査報告——オラン＝オーシグ山周辺の遺跡調査を中心に——」（草原考古通信11, 1～28頁, 草原考古研究会, 2000年5月）。

原 実

- ③ “A Note on the Phrase *dharma-ksetre kuru-ksetre*,” (Journal of Indian Philosophy 27/1-2, pp. 49~66, (Festschrift Kamaleshnar Bhattacharya, Dortrecht, 1999), “The Pearl in Sanskrit literature” (*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* 57, pp. 155~174, The Toyo Bunko, 1999), “Ātman in the Bhagavad-gītā as interpreted by Śankara” (*Composing a Tradition : Concepts, Techniques and Relationships*, pp. 67~89, Zagreb, 1999), “Pāśupata and Yoga Pāśupata-sūtra 2.12 and Yoga sūtra 3.37” (*Asiatische Studien/Etudes asiatiques* 53/3, pp. 593~608, Bern, 1999), “Tapas in the Smṛti-Literature” (*Indologia Taurinensia* 23-24〈Prof. Gregory M. Bongard-Levin Felicitation Volume〉 pp. 631~644, 1999), “A Note on the Compound *krodha-mūrchita*” (*Indica et Tibetica* 37 *Vividharatnakarandaka, Festgabe für Adelheid Mette*, pp. 343~357, Swisttal-Odendorf, 2000), “Sāra sāra, samsāra” *Makaranda* (Madhukar Anant Mehendale Festschrift), Editors : M. A. Dhaky and J. B. Shah, pp. 139~159, Ahmedabad, 2000), “Two Notes on the word *upanīṣad* in the *Mahābhārata*” (*Studia Indologiczne* 7 S. Schayer Birth Centenary Volume, pp. 157~169, Warszawa, 2000), 「植物の知覚——古典インドの自然観察より——」(国際仏教学大学院大学研究紀要 2, pp. 412~390, 1999), 「慈心力」(国際仏教学大学院大学研究紀要 3, 394~356頁, 2000), ⑤ 「R. Grünendahl, A. Malinar, Th. Oberlies, P. Schreiner, *Nārāyanīya-Studien* (Wiesbaden, 1997) pp. xv+642」(*Indo-iranian Journal* 43, pp. 155~161, 2000), ⑦ 「古代インドの女性」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1999年10月26日, 要旨: 東洋学報81—4, 118~119頁, 2000年3月), 「インド学と仏教学」(国際仏教学大学院大学公開講座, 1999年12月4日), “Buddhism and Brahmanism” (*The XIIth Conference of the International Association of Buddhist Studies*, 23 August 1999), “Hindu Concept of Anger” (—On understanding other culture—*International Conference on Sanskrit and Related Studies in Commemorate the Centenary of the Birth of Stanislaw Schayer* at Warsaw Univ. Poland, 8 October 1999), “A Brief History of Sanskrit Studies in Japan” (*The Second International Vedic Workshop*, Univ. of Kyoto, 30 October 1999), “Indology” (フランス極東学院創立100年記念シンポジウム, 国際交流基金, 2000年5月25日), ⑧ 「D. H. H. Ingalls 先生の長逝を悼む」(東方学99, pp. 106~113, 東方学会, 2000年1月), 「de Jong 教授回想二題」(国際仏教学大学院大学研究紀要 3 (2000), 402~396頁, Obituary. Daniel Henry Holmes Ingalls (4 May 1916-17 July 1999), *Indo-iranian Journal* 43, 2000, vii-ix), 「J.W.de Jong 博士の長逝を悼む (15/2/1921-22/1/2000)」(東方学100, 301~309頁, 2000年7月)。

古屋 昭弘

- ②『デイリーコンサイス中日・日中辞典（中型版）』（杉本達夫・牧田英二と共編，三省堂，2000年4月，1438頁），③「『齊民要術』に見る使成フレーズVt+令+Vi」（日本中国学会報52，1～17頁，日本中国学会，2000年10月），「押韻から見た説唱文学と皮影戯」（『平成9—11年度科学研究費基盤研究（C）研究成果報告書』，96～105頁，2001年3月），⑦「使成詞組V<sub>1</sub>令V<sub>2</sub>和V<sub>1</sub>教V<sub>2</sub>」（王力先生誕辰一百周年国際学術研討会，北京大学，2000年8月15日），⑧「『三国志玉璽伝』の言葉のことなど」（『中国語学研究開篇』20，270～273頁，好文出版，2000年12月）。

堀 敏一

- ①『中国通史——問題史としてみる——』（講談社学術文庫，2000年6月，387頁）。

三浦 徹

- ⑤「ブリジット・マリノ&大河原知樹編『ダマスクス歴史文書館所蔵オスマン朝時代法廷台帳目録』（東洋学報82-2，pp. 09～016，（財）東洋文庫，2000年9月）。

森安 孝夫

- ②「新疆吐魯番地区文物局（編）Xin-jiangTu-lu-fan di-qu wen-wu ju (ed.)『吐魯番新出摩尼教文献研究』（*Tu-lu-fan xin-chu Mo-ni jiao wen-xian yan-jiu*，北京Pekin，文物出版社 Wen-wu chu-ban she，2000），③“On the Uighur exsapt ay and the Spreading of Manichaeism into South China” (R. E. Emmerick, W. Sundermann and P. Zieme (eds.), *Studia Manichaica. IV. Internationaler Kongress zum Manichäismus, Berlin, 14.-18. Juli 1997*, (Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Sonderband 4), Akademie Verlag, pp. 430～440, Berlin, 2000), “The Sha-chou Uighurs and the West Uighur Kingdom” (*Acta Asiatica* 78, pp. 28～48, 東方学会, 2000), 「沙州ウイグル集団と西ウイグル王国, “The Sha-chou Uighurs and the West Uighur Kingdom”」(内陸アジア史研究・*Journal of Inner Asian History* 15, pp. 21～35, 2000), 「河西帰義軍節度使の朱印とその編年; “Chronologie des sceaux officiels employés par les commissaires impériaux de l’Armée Revenue au Devoir (Kouei-yi kiun 歸義軍)” (内陸アジア言語の研究 *Nairiku Ajia gengo no kenkyū* (*Studies on the Inner Asian Languages*) 15, pp. 1～121, +1 table, +10 pls. in color & 5 pls. in black and white, 2000), “The West Uighur Kingdom and Tunhuang around the 10th-11th Centuries” (*Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften* 8, pp. 337～368, 2000), 「森安孝夫&吉田豊 (Y.Yoshida) ベゼクリク出土ソグド語・ウイグル語マニ教徒手紙文」“Manichaean Sogdian and Uighur letters recently unearthed in Bezeklik,

Turfan”] (内陸アジア言語の研究 *Nairiku Ajia gengo no kenkyū* (*Studies on the Inner Asian Languages*) 15, pp. 135~178, 2000), ④「欧州所在中央アジア出土文書・遺品の調査と研究」(東方学99, pp. 122~134, 東方学会, 2000年1月)。

#### 山崎 元一

③「Brāhmanas and Caṇḍālas : One Aspect of Ancient India's Varṇa Social System」(Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko 58, 99~116頁, (財)東洋文庫, 2001年3月), ④「南アジア学——日本における南アジア研究を中心に——」(東方学100, 178~187頁, 東方学会, 2000年9月)。

#### 柳田 征司

②『大宮武麿氏旧蔵書目録』(奈良女子大学附属図書館, 2001年3月, 70頁), ③「五音節名詞の東京方言アクセント」(鎌倉時代語研究23, 221~235頁, 武蔵野書院, 2000年10月), 「抄物目録稿(原典漢籍経部二 四書・小学)」(抄物の研究11, 1~57頁, 抄物研究会, 2000年11月), 「方向格助詞「サ」・目的格助詞「バ」・形容詞終止形・連体形活用語尾「〜カ」の方言分布」(佐藤喜代治編『国語論究8 国語史の新視点』, 39~70頁, 明治書院, 2000年11月), 「抄物目録稿(国書——日本書紀上)」(抄物の研究12, 抄物研究会, 2000年12月), 「抄物目録稿(原典国書御成敗上目抄上)」(抄物の研究13, 抄物研究会, 2001年2月), 「母音連続の融合と非融合——a+e, V+格助詞「へ(エ)」, V+格助詞「を(オ)」の場合——」(国語語彙史の研究20, 1~10頁, 和泉書院, 2001年3月), ⑦「日本語研究資料としての抄物」(奈良県図書館協議会大学専門部会, 2000年10月), ⑧「抄物関係文献目録(追補2)」(抄物の研究11, 59頁, 抄物研究会, 2000年11月), 「奈良女師高等師範学校時代の春日政治先生」(大学史研究1, 1~4頁, 奈良女子大学百年史編纂室, 2001年3月)。

#### 山内 弘一

②『新版世界各国史2 朝鮮史』(武田幸男編, 山川出版社, 2000年8月, 本文436頁+索引等84頁), ③「朝鮮國人李德懋と慕華意識」(朝鮮文化研究7, 25~45頁, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部朝鮮文化研究室, 2000年3月), 「State Sacrifices and Daoism during the Northern Song」(Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko 58, 1~18頁, (財)東洋文庫, 2001年3月), ⑧「画期としての高麗王朝」(月刊韓国文化2001-2, 6~9頁, 韓国文化院, 2001年2月)。

山根 幸夫

②『天津図書館日本文庫蔵近代中国・日中関係図書分類目録』（私家版，2000年8月，本文104頁，索引28頁），『中国留学生友の会の20年』（岡嶋昭治共編，中国留学生友の会，2000年4月，本文95頁），③「敦子章及其著作」（『南開大学歴史研究所建所20周年記念論文集』，108～124頁，南開大学出版社，1999年8月），「戦後日本の明史研究紹介」（史学集刊2000-3，1～5頁，吉林大学史学集刊編輯委員会，2000年8月），「戦後日本の明史研究紹介」（『後印報刊資料・明清史』2000-1，9～13頁，中国人民大学書報資料中心，2000年12月），④「反満抗日運動に身を投じた建国大学生——統幻の学園・建国大学『抗日曲折考』」（東方236，21～23頁，東方書店，2000年10月），⑧「中国留学生と私」（『中国留学生友の会の20年』5～7頁，2000年4月），「中山八郎教授を偲ぶ」（明代史研究28，1～4頁，明代史研究会，2000年4月），「亡き人々を偲ぶ」（明代史研究28，18～23頁，明代史研究会，2000年4月），「森弘之君を偲ぶ」（『追想森弘之先生を偲んで』，80～82頁，森弘之先生を偲ぶ会，2000年5月），「編集後記」（汲古37，93頁，汲古書院，2000年6月），「編集後記」（汲古38，58頁，汲古書院，2000年12月）。

吉田 寅

③「洋務運動期の宣教師刊中国語定期刊行誌」（立正史学87，179～190頁，立正大学文学部，2000年4月），「中国プロテスタント宣教師の中国語研究と識字教育」（比較文化史研究2，1～16頁，2000年9月），⑤「深澤秀雄『中国の近代化とキリスト教』」（キリスト教史学54，120～122頁），2000年7月），「佐野賢治編『西南中国納西族・彝族の生活文化』」（総合歴史教育36，87～89頁，2000年7月），⑧「伊瀬仙太郎先生を追悼する」（総合歴史教育36，90～94頁，立正大学，2000年7月）。

和田 博徳

③「科学の冒籍について——明末の変革——」（歴史と地理——世界史の研究——536，34～35頁，山川出版社，2000年8月），「明代における地方官の久任と保留——長期在任と留任請願——」（創大アジア研究22，1～12頁，創価大学アジア研究所，2001年3月），⑦「着業牌と十家牌——明代の支配システム——」（創価大学アジア研究所2000年度研究会，2000年10月30日）。

和田 恭幸

③「浅井了意の仏書とその周辺（四）——新しいタイプの因縁集について——」（国文学研究資料館紀要27，pp. 229～258，2001年3月），「近世初期版本刊記集影（五）——補遺篇——」（調査研究報告21，pp. 161～202頁，2000年9月）。

# Ⅲ 業 務 報 告

## 1. 総 務 報 告

### ⅰ 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催 理 事 会

- 第310回 開催日 平成12年6月6日(火曜日)  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、佐藤次高、斯波義信  
田中正俊、鶴見尚弘、中根千枝、林健太郎、山本達郎、秋山哲児  
委任状 木田 宏、若井恒雄
- 第311回 開催日 平成12年6月6日(火曜日)  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、佐藤次高、斯波義信  
田中正俊、鶴見尚弘、中根千枝、林健太郎、山本達郎、秋山哲児  
委任状 木田 宏、若井恒雄
- 第312回 開催日 平成12年12月5日(火曜日)  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、木田 宏、佐藤次高  
斯波義信、田中正俊、鶴見尚弘、中根千枝、林健太郎、原 啓芳  
山本達郎、若井恒雄
- 第313回 開催日 平成13年3月23日(金曜日)臨時持回り  
出席者 北村 甫、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、木田 宏、佐藤次高  
斯波義信、田中正俊、鶴見尚弘、中根千枝、林健太郎、原 啓芳  
山本達郎、若井恒雄

### 評 議 員 会

- 第143回 開催日 平成12年6月6日(火曜日)  
出席者 岡野 澄、佐竹昭広、中嶋 敏、前田充明、松村 潤  
委任状 奥島孝康、高木丈太郎、田部文一郎、鳥居泰彦、長尾 真  
蓮實 重彦、日比野丈夫
- 第144回 開催日 平成12年12月5日(火曜日)  
出席者 岡野 澄、中嶋 敏、松村 潤  
委任状 奥島孝康、佐竹昭広、高木丈太郎、田部文一郎、鳥居泰彦、  
長尾 真、日比野丈夫

## ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前期 開催日 平成12年 5月23日（火曜日）  
出席者 北村 甫（委員長）、斯波義信、竺沙雅章、中嶋 敏、西田龍雄  
森本公誠  
議 題 1. 平成11年度財団法人東洋文庫事業報告について  
2. 平成12年度財団法人東洋文庫事業計画について  
3. その他
- 後期 開催日 平成12年11月21日（金曜日）  
出席者 北村 甫（委員長）、尾崎 康、斯波義信、竺沙雅章、中嶋 敏  
西田龍雄、森本公誠、山本達郎  
議 題 1. 平成12年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2. 平成13年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
3. その他

## 2. 人 事 報 告

### i. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
12.6.6	理事	秋山哲児	退任	
〃	〃	原啓芳	就任	
13.1.24	〃	山本達郎	逝去	

### ii. 委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
13.1.24	東洋学連絡委員	山本達郎	逝去	

### iii. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
12.4.1	司書	関 さやか	就職	
12.6.6	総務部長	秋山 哲兒	退任	
〃	〃	原 啓芳	就任	
12.9.5	研究員(兼任)	三根谷 徹	逝去	
13.3.31	文庫長	相島 宏	退任	
〃	研究員(奨励)	佐藤 仁史	辞任	

### iv. 受章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
12.11.3	理事	石井 米雄	顕彰	文化功労者
12.12.12	研究員(兼任)	原 實	選定	日本学士院会員



## IV 役 職 員 名 簿

平成13年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長 理 事 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	北 村 甫	東京外国語大学名誉教授
	石 井 米 雄	神田外語大学学長 京都大学名誉教授
	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社代表取締役社長
	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
	木 田 宏	財団法人新国立劇場運営財団顧問
	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学学長
	中 根 千 枝	日本学士員会員 東京大学名誉教授
	林 健 太 郎	東京大学名誉教授
	原 啓 芳	財団法人東洋文庫総務部長
	若 井 恒 雄	株式会社東京三菱銀行相談役
	種 田 公 二	株式会社パスコ監査役
監 事 〃 評 議 員 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	茅 野 静 逸	三菱金曜会事務局長
	岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
	奥 島 孝 康	早稲田大学総長
	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
	高 木 丈 太 郎	三菱地所株式会社相談役
	田 部 文 一 郎	三菱商事株式会社相談役
	鳥 居 泰 彦	慶応義塾塾長
	長 尾 真	京都大学学長
	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
	蓮 實 重 彦	東京大学学長
	日 比 野 丈 夫	京都大学名誉教授

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	前 田 充 明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	松 村 潤	日本大学名誉教授

## 2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長
委 員	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	帝京大学教授
〃	興 膳 宏	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	日 比 野 丈 夫	京都大学名誉教授
〃	間 野 英 二	京都大学教授
〃	森 本 公 誠	東大寺執事長 華厳宗宗務長

## 3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ・バライ	コロンビア大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

#### 4. 職員

(平成13年3月31日現在)

部名	職名	氏名
総務部	部長	原 啓 芳
〃	課長	光 田 憲 雄
〃	会計係長	金 子 祐 子
〃	参事	中 沢 元 幸 橋 伸 子 藤 村 由 美 子 吉 田 男 佐 武 長 谷 川 茂 広

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	佐 藤 次 高	東京大学教授
〃	研究員(兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学助教授
〃	〃	飯 島 武 次	駒沢大学教授
〃	〃	池 田 温	創価大学教授
〃	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	石 井 米 雄	神田外語大学学長
〃	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国士館大学教授
〃	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	井 上 和 枝	武蔵野女子大学専任講師
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	宇都木 章	青山学院大学名誉教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
〃	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
〃	〃	岡 田 英 弘	常磐大学教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	風 間 喜 代 三	法政大学教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	辛 島 昇	大正大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 員	研究員(兼任)	川 崎 信 定	東洋大学教授
〃	〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
〃	〃	岸 本 美 緒	東京大学教授
〃	〃	草 野 靖	福岡大学教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	氣賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
〃	〃	佐 竹 昭 広	京都大学名誉教授
〃	〃	酒 井 憲 二	調布学園短期大学名誉教授
〃	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
〃	〃	薮 勇 造	東京大学教授
〃	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	新 免 康	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授
〃	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	武 田 幸 男	名古屋市立大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
〃	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	〃	田 村 晃 一	青山学院大学教授
〃	〃	千 葉 暎 長	桐朋学園大学理事長
〃	〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学助教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立女子短期大学学長
〃	〃	朽 尾 武	成城大学教授
〃	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研 究 部	研究員 (兼任)	鳥 海 靖	中央大学教授
〃	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
〃	〃	永 積 洋 子	城西大学教授
〃	〃	中 野 真麻理	国文学研究資料館助手
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学講師
〃	〃	長谷川 誠 夫	慶応義塾大学講師
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学助教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	星 実千代	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所研究員
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学教授
〃	〃	堀 敏 一	明治大学名誉教授
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学学長
〃	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
〃	〃	御 牧 克 巳	京都大学教授
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
〃	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学教授
〃	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良女子大学教授
〃	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山 口 謡 司	イギリス・ケンブリッジ大学助手

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	山崎元一	国学院大学教授
〃	〃	山根幸夫	東京女子大学名誉教授
〃	〃	吉田寅	元立正大学教授
〃	〃	吉田光男	東京大学教授
〃	〃	渡辺紘良	獨協医科大学教授
〃	〃	和田博徳	慶応義塾大学名誉教授
〃	〃	和田恭幸	国文学研究資料館助手
〃	研究員(専任)	北村甫	東洋文庫理事長
〃	〃	福田洋一	
〃	〃	本庄比佐子	
〃	〃	松本明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部長	斯波義信
〃	東洋文庫長	相島宏※
〃	文庫長補佐	西園一男※
〃	主査	志茂碩敏※
〃	副主査	牧武※
〃	司書	桜井徹 中善寺慎※ 大町由起子※ 沢崎京子※ 山村義照 篠崎陽子 関さやか※

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

## 5. 臨時職員

部 名	氏 名
総務部	豊田典子
研究部	青柳かおる 石川博樹 石川美穂 井上直樹 岩永和子 大河原洋子 木下宗篤 胡容 現銀谷史明 佐藤秀信 島谷泰子 清水敏江 清水保尚 信加加奈子 鈴木健太郎 鈴木直子 高村武幸 谷家章子 露口哲也 寺嶋達哉 十倉桐子 中澤中 長渡陽一 永瀬峰子 貫井万里 野田仁 平田陽一郎 深見和子 福地智子 熱比燕 渡辺いずみ
図書部	岩見隆 呉吉煥 加藤良輔 清水一枝 臧世俊 高木雅弘 高瀬奈津子 高田ひさ子 高田まゆみ 寺西澄子 外川和雅 前島佳孝 目黒輝 呂静

## V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野に関する調査研究を、多角的な視点から国際的・学際的・継続的に実施し、かつインフォメーション・センターとして研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図る。

### 1. ユネスコ協力事業

【概要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

#### 【事業内容】

#### (1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。

専門委員：梅村 坦、久保一之、小松久男、新免 康、中見立夫、羽田 正、  
濱田正美、堀 直、森川哲雄

#### (2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 2000－2001 に「Asian Research Trends の編集・出版」事業（2-1）をもって参加した。

#### (3) 「日本の思想文献」情報提供

日本ユネスコ国内委員会の委嘱、株式会社安田総合研究所の後援により、同委員会編『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan”日本学術振興会 1959－1976年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、ウェブサイト（ホームページ）を東洋文庫内に設置し公開した。

9月11日に同インターネットサイト開設披露会を株式会社安田総合研究所（東京都新宿区）において開催した。

## 2. 学術情報活動－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

### 2-1. Asian Research Trends の編集・出版

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

#### 【事業内容】

英文の年刊誌 “Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review” の編集・出版を行なった。本年度は No.11 (2001) を刊行し、世界各地域におけるアジア研究の動向を中心に掲載、あわせて下記「フランス国立極東学院創立百周年記念事業」(5-1) による学会記録等を掲載した。A5判変型 (1,200部)。

本事業をもって上記「ユネスコ参加事業計画」(1-2) に参加した。また、本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセット (東京都町田市) に委託した。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、小松久男、佐藤次高、中里成章、濱下武志、  
山内弘一、山崎元一

### 2-2. 国内外研究情報の収集

【概要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関および研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学術交流のための基礎資料とする。

#### 【事業内容】

#### (1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関・学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

#### (2) 国外研究情報の収集

##### (2)-A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・



調査期間は下記のとおりである。

大韓民国：

藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会生涯学習課副主幹）

8月17日－8月27日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウル所在の研究機関を訪問した。あわせて、国立中央博物館において「『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の編集・出版」（4-2-3）事業のための調査研究を行なった。

フランス共和国：

大井 剛（センター調査外事室長）

10月3日－10月14日

フランス国立高等研究院日本宗教学民俗学研究所・笹川日仏財団共催によるコロキウム「日本・その未来」がフランスにおいて開催され、同研究所の招請により大井剛調査外事室長が同国に出張して研究報告を行なった。

大韓民国：

藤井和夫（前 掲）

11月22日－11月27日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウルおよび慶州所在の研究機関を訪問した。

中華人民共和国：

三山 陵（センター共同研究員、日中藝術研究会主任研究員）

12月3日－12月26日

大井 剛（前 掲）

12月17日－12月28日

徐 光輝（センター共同研究員、龍谷大学国際文化学部助教授）

12月19日－12月28日

田村晃一（東洋文庫研究員、青山学院大学文学部教授）

12月24日－12月28日

藤井和夫（前 掲）

12月24日－12月28日

本調査は、中国に関する継続調査として行なわれ、北京および遼寧省大連所在の図書館・研究機関を訪問した。

中華人民共和国：

徐 光輝（前 掲）

2月28日－3月28日

本調査は、中国に関する継続調査として行なわれ、長春・大連をはじめとする遼寧省所在の研究機関を訪問した。

ベトナム社会主義共和国：

大井 剛（前 掲）

3月13日－3月21日

三山 陵（前 掲）

3月13日－3月21日

本調査は、ベトナムにおける印刷文化の調査研究のために行なわれ、ホーチミン市およびフエ・ハノイ所在の研究機関を訪問した。調査の実施にあたり台

湾台南・奇美博物館潘元石館長の同行協力を得た。

(2)－B. 講演会・研究会の開催

諸外国の研究情報を得、研究者相互の交流を図るため、下記の研究会の開催に協力した。

6月27日(火)

講師：金 洛 中 韓国、国立文化財研究所

主 題：韓国、羅州新村里第9号墳の発掘調査

会 場：東京大学文学部多分野交流演習室

共 催：東北亜細亜考古学研究会

2－C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度 2-2-(2)-B および 2-2-(3) に記載した外国人研究者以外に、センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記のとおりである。

Trasvin Jittidejarak(Ms)	Publisher & Director, Trasvin Publications Ltd., Part., Chiang Mai, Thailand
Mohammad Reza Nasiri	Vice President, Payam-e Noor Univ., Tehran, Iran
Faruq Kharabi	Professor, Univ. of Gilan, Lasht, Iran
Yokoi Momoko 横井桃子(Ms)	Lecturer, Language & Communication Dept., Singapore Polytechnic, Singapore
Urugodawatte, C.T.	Graduate student, Regional Studies East Asia, Harvard Univ., Cambridge, MA, USA
Daw Ni Ni Myint (Ms)	Director-General, Dept. of the Universities Historical Research, Ministry of Education, Myanmar
U Thein Hlaing	Deputy Director-General, same department as above
Daw Mi Mi Kyaw	Researcher, same department as above
U Tun Aung Chein	Member of Myanmar Historical Commission
Tankha, Brij	Reader in modern Japanese history, Dept. of Chinese & Japanese Studies, Univ. of Delhi, Delhi, India
Shibatani Kaori 柴谷果織(Ms)	Product developer, Mind and Technologies, Inc., Palo Alto, CA, USA
張 本 義	大連図書館館長、遼寧省大連、中国

王 若 Urunbaev, Asam	大連図書館副館長、大連、中国 Chief researcher, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences of the Republic of Uzbekistan, Tashkent, Uzbekistan
洪 鎮 根	国立中央博物館建立推進企劃団展示課学芸研究士、 ソウル、韓国
徐 聖 鎬	国立中央博物館美術部学芸研究士、ソウル、韓国
金 仁 徳	国立中央博物館遺物管理部学芸研究士、ソウル、韓国
林 滢	吉林大学考古学系教授、長春、中国
李 相 泰	国史編纂委員会、京畿道果川、韓国
李 薰(Ms)	国史編纂委員会、京畿道果川、韓国

#### (2) - D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月設置されたフランス国立極東学院東京支部との協力のもとに学術交流事業を実施した。東京支部代表は、平成12年12月までクリストフ・サブレ氏（同学院研究員）、平成13年1月よりジャン＝フランソワ・スーム氏（同学院研究員）である。

Sabouret, Christophe    membre contractuel, chargé de recherche, Section  
de Tôkyô, Ecole française d'Extrême-Orient (EFEO)

Soum, Jean-François    membre contractuel, chargé de recherche, Section  
de Tôkyô, Ecole française d'Extrême-Orient (EFEO)

フランス国立極東学院創立百周年記念事業の準備を進めた（下記 5-1 の項、参照）。

#### (3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として、来日中の海外の専門家を、下記の通り国内において招聘した。

許 紅 霞    中華人民共和国、北京大学中文系副教授

平成12年8月2日－8月4日    中国文学・書誌学に関する中日相互理解をはかるため招聘し、東洋文庫において研究交流を行なった。

#### (4) 研究普及

コンピュータネットワーク「インターネット」に公開している東洋文庫ウェブサイトセンターのホームページを設置し、公開データ等を随時更新した。

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈交換等を行なった。

下記の機関において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館（通年）

### 3. コンピュータネットワーク事業

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報をコンピュータネットワークを媒体として公開し、内外の研究者・研究機関に提供する。

#### 3-1. 研究情報データベースの作成

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2) 事業において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、ディレクトリ・文献目録として編集する。

##### 【事業内容】

##### (1) 国内研究者ディレクトリの編集・出版

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。対象分野は次のとおりである。

①アジア歴史学、②アジア言語学、③印度学仏教学、④中国学、⑤韓国・朝鮮学

##### (2) 国内研究文献目録の編集・出版

研究文献目録の編集を進めるために、資料の収集を行なった。対象分野は次のとおりである。

①中央アジア研究文献、②中東・イスラーム研究文献

#### 3-2. コンピュータネットワークの形成

【概要】 上記「研究情報データベースの作成」(3-1) 事業において編集した学術情報をコンピュータ通信をメディアとして公開し、コンピュータネットワークの形成に寄与する。

##### 【事業内容】

##### (1) 東洋文庫ウェブサイトによる情報の提供

東洋文庫ウェブサイト（ホームページ）において、下記の研究文献目録のデータベースを公開した。

A 「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B 「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

##### (2) 文部科学省国立情報学研究所への情報の提供

文部科学省国立情報学研究所（旧文部省学術情報センター）の情報検索サービス（NACSIS-IR）に下記の研究文献目録および研究者ディレクトリのデータを提供し

た。

- A 「日本における中央アジア関係研究文献目録」
  - B 「日本における中東・イスラーム研究文献目録」
  - C 「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」
  - D 「日本における印度学仏教学研究ディレクトリ」
- 7月17日に、上記のうちAのデータを更新した。

## 4. 重要文献の研究・保存事業

－アジア重要文化財(文献)の研究・保存－

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

### 4-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

#### 【事業内容】

専門委員：佐藤次高、立川武蔵、御牧克己、湯山 明

#### (1) 「大事譬喩譚」サンスクリット古写本の編集・出版

“The Mahāvastu-Avadāna in Old Palm-leaf and Paper Manuscripts,” by Akira Yuyama. Vol. I; Vol II. <Bibliotheca Codicum Asiaticorum, Nos.15 and 16>

「アジア重要文献覆刻叢書」第15巻・第16巻として、「梵文大事譬喩譚編集刊行委員会」（委員長：湯山明創価大学教授）の委託および寄附金を受けて同書の編集を行なった。本書は、古代インドの仏教説話集「マハーヴァストゥ・アヴァダーナ」（大事譬喩譚）のサンスクリット古写本2種を影印し、英文解説を付したものである。本年度は2種の写本（貝葉と紙本）のうち紙本の部を第2巻として出版した。編者は、湯山明創価大学国際仏教学高等研究所教授である。B4判（800部）。

### 4-2. アジア史料の研究・保存

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存し、研究を行なうとともに広く普及を図る。

### 【事業内容】

#### (1) 「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

「アジア史料叢刊」シリーズの一点として同書の編集・出版を行なった。本書は、19世紀初頭のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の原文を影印し、本文を英訳して解説と注釈とを加えたものである。注釈者は、マユリ・ガオシヴァトゥン氏およびブイパン・ガオシヴァトゥン氏である。史料および英訳の校閲は、嶋尾稔慶應義塾大学言語文化研究所助手による。

#### (2) 「繊維考古資料の研究」の編集・出版

同書の編集を進めた。本書は、中国・日本をはじめアジア各地に伝存し、または出土した絹・麻などの繊維製品の遺物を、主として自然科学的方法により分析した研究書である。著者は、布目順郎京都工芸繊維大学名誉教授である。

#### (3) 「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

同書の編集を行なった。本書は、朝鮮総督府時代(1911-1945年)に実施された文化遺跡等の調査のうち未報告の資料について「朝鮮古蹟研究会遺稿」全3巻として編集したものである。全体の構成は次のとおりである。

朝鮮古蹟研究会遺稿Ⅰ(新羅古墳)

朝鮮古蹟研究会遺稿Ⅱ(百済・加羅古墳)

朝鮮古蹟研究会遺稿Ⅲ(楽浪漢墓)

編著者は、有光教一高麗美術館研究所所長・京都大学名誉教授、藤井和夫センター運営委員・実践女子大学講師である。

本事業の実施に際し、事業の一部を有限会社多摩アセットに委託した。

#### (4) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

## 5. フランス国立極東学院学術交流事業

【概要】 フランス国立極東学院と東洋文庫との学術交流の協力関係を確立するため、同学院創立百周年の記念事業を企画・運営する。

### 【事業内容】

#### (1) フランス国立極東学院創立百周年記念事業

同記念事業として、5月25日・26日に国際交流基金国際会議場(東京都港区)においてコロキウム「アジア学の展望」を開催した。石井米雄センター所長およびフランス国立極東学院ジャン=ピエール・ドレージュ院長のコーディネイトにより、極

東学院パリ本部およびアジア各地の支部研究員ら10名、山本達郎氏ほか日本側研究者10名、アジア諸国からの招聘研究者4名（インド、タイ、カンボジア、ベトナムから各1名）の報告と討論が行なわれた。本事業は、フランス国立極東学院ならびに国際交流基金アジアセンターとの共催である。事業の実施にあたり国際交流基金から助成金を受けた。

フランス国立極東学院創立百周年記念式典が12月8日にパリのフランス学士院にて開催され、また同記念コロキウム「アジアの文献と地域」が12月4日・5日にパリの上院議事堂にて開催された。同学院の招請により大井剛調査外事室長が12月3日から11日までフランスに出張して同式典およびコロキウムに出席した。

## 6. 業 務 報 告

### A. 運営委員会・顧問会議

#### 運営委員会

前 期 開 催 日 平成12年 5 月23日（火） 10時30分－11時30分

場 所 東洋文庫 3 階会議室

出席委員 5 名 委任状11名

報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. 参与の委嘱について  
3. 運営委員の委嘱について  
4. その他

職員の退職について

議 題 1. 平成11年度事業報告及び決算報告について  
2. 平成12年度事業計画及び予算案について

後 期 開 催 日 平成12年11月21日（火）10時35分－11時30分

場 所 東洋文庫 3 階会議室

出席委員 6 名 委任状11名

報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. その他

石井米雄所長が文化功労者の顕彰を受けたことについて

議 題 1. 平成12年度事業中間報告及び収支状況報告について  
2. 平成13年度事業計画案及び収支予算案について

#### 顧問会議

開 催 日 平成12年 5 月23日（火） 10時30分－11時30分

場 所 東洋文庫 3 階会議室

出席顧問 1 名 委任状 3 名

報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. 参与の委嘱について  
3. 運営委員の委嘱について  
4. その他

職員の退職について

議 題 1. 平成11年度事業報告及び決算報告について  
2. 平成12年度事業計画及び予算案について



## B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
12年6.14	顧問	工藤 智規	退任	文部省学術国際局長
6.15	顧問	遠藤 昭雄	就任	文部省学術国際局長
7.1	顧問	岡野 澄	再任	財団法人井上科学振興財団常務理事
7.1	顧問	山本 達郎	再任	日本学士院会員
7.1	参与	長尾 雅人	再任	日本学士院会員
7.1	運営委員	藤井 和夫	再任	実践女子大学講師
13年1.6	顧問	遠藤 昭雄	退任	文部省学術国際局長
1.6	運営委員	井上 正幸	退任	文部省大臣官房審議官
1.6	運営委員	大木 正充	退任	文部省大臣官房審議官
1.6	顧問	白川 哲久	就任	文部科学省国際統括官
1.24	顧問	山本 達郎	逝去	
3.31	運営委員	石井 溥	退任	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
	運営委員	石上 英一	退任	東京大学史料編纂所長

## C. 顕彰

年月日	役職名	氏名	顕彰
12年11.3	所長	石井 米雄	文化功労者

#### D. 会計報告

平成12年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成13年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額 (千円)	科 目	金 額 (千円)
事 業 費	81,515	国 庫 補 助 金	73,900
ユネスコ協力事業費	942	財 産 収 入	0
学 術 情 報 事 業 費	13,741	雑 収 入	7,615
コ ン プ ュ ー タ ネ ッ ト	4,653		
ワ ー ク 事 業 費			
重 要 文 献 の 保 存 ・ 普	14,357		
及 事 業 費			
フ ラ ン ス 国 立 極 東 学 院	3,996		
学 術 交 流 事 業 費			
人 件 費	43,594		
事 務 費	232		
計	81,515	計	81,515

## 7. 役 職 員 名 簿

平成13年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eは ex officio (官職指定)。

### A. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
所 長	石 井 米 雄	神田外語大学長、京都大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
顧 問	岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
	白 川 哲 久 E	文部科学省国際統括官
	平 山 郁 夫 E	日本ユネスコ国内委員会会長
	藤 井 宏 昭 E	国際交流基金理事長
	前 田 充 明	財団法人国際学友会理事、城西大学名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
参 与	長 尾 雅 人	日本学士院会員、京都大学名誉教授
運 営 委 員	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	石 井 溥 E	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
	石 上 英 一 E	東京大学史料編纂所長
	石 毛 直 道 E	国立民族学博物館長
	辛 島 昇	大正大学文学部教授、東京大学名誉教授
	草 場 宗 春 E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
	桑 山 正 進 E	京都大学人文科学研究所長
	小 西 正 樹 E	国際交流基金専務理事
	佐々木 高 明	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事長、国立民族学博物館名誉教授
	佐 藤 次 高	東京大学大学院人文社会系研究科教授、財団法人東洋文庫理事
	斯 波 義 信	国際基督教大学教養学部教授、財団法人東洋文庫理事
	立 本 成 文 E	京都大学東南アジア研究センター所長
	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授

## A. 役員

役職名	氏名	現職
運営委員	戸川 芳郎	二松學舎大學大学院文学研究科教授、東京大学 名誉教授
	中根 千枝	日本学士院会員、東京大学名誉教授、財団法人 東洋文庫理事
	原 洋之介	E 東京大学東洋文化研究所長
	藤井 和夫	実践女子大学講師
	山崎 元一	國學院大學文学部教授
	山澤 逸平	E 日本貿易振興会アジア経済研究所長

## B. 職員

室名	職名	氏名
調査外事室	室長	大井 剛
	研究員	近藤 敦子
普及室	研究員	設楽 靖子
	参事	坂本 葉子
庶務会計室	室長	飯田 隆子
外国人専門員		John Wisnom

## C. 共同研究員

氏名	現職
徐 光 輝	龍谷大学国際文化学部助教授 東洋美術学校中国水墨画科講師
三 山 陵	
石 丸 由 美	
十 倉 桐 子	

## D. 臨時職員

平成12年4月1日から平成13年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

内田あかね、河原弥生、木村暁、倉本尚徳、小前亮、島谷泰子、高木文子、趙聖九、西田暢子、原山隆広、益井岳樹、森山央朗、渡部良子

財団  
法人 東洋文庫年報 平成12年度

---

---

平成13年10月25日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫  
斯波義信

印刷所 株式会社 デイグ

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

---

